

山陽学会会誌

第五十一号

目次

一、人生 志を持って生きる	公益財団法人岩陽学舎	理事	佐倉弘之甫	3
二、エボシ御前	慶應義塾大学大学院後期博士課程	二年	吉井舜也	5
三、「私の洋楽愛」	日本大学卒業	四年	山根隆真	8
四、踏ん切りは夢の中で	早稲田大学文化構想学部	四年	石村航	10
五、マンガの表現技法―芦毛の怪物編	立教大学社会学部現代文化化学科	四年	松澤優介	13
六、学び舎に帰ろう	帝京大学法学部法律学科	四年	川村恭史	15
七、メディアの歴史とこれから	東京工業大学工学院システム制御学科	三年	森本龍	17
八、with コロナの大学生活	東京工業大学物質理工学院材料学科	三年	長藤瑛哉	20
九、The prosperity of English and its future	早稲田大学教育学部英語英文学科	三年	國次瑛伶	22
十、アマゾンのイノベーション	立教大学経営学部国際経営学科	三年	原田春玲	26
十一、学舎から電車に乗らずに食べにいけない二郎系ラーメン	東京工業大学情報理工学院情報工学科	二年	吉谷碧海	28
十二、夏休みの思い出	目白大学人間学部人間福祉学科	一年	大塚はな	30
十三、ロジステイクスクールについて	青山学院大学総合文化政策学部	一年	高石光輝	32
十四、東京、コロナ、十八歳の自分	早稲田大学文学部	一年	高部吉之介	34
十五、六カ月間の東京生活 with コロナ	日本大学理工学部	一年	谷上龍平	36
十六、仏教のすすめ	駒澤大学仏教学部	一年	田弘一真	38
十七、「インターネット免許制度の問題点、もしくは実施可能なくみ」について	東京電機大学工学部二部	一年	中島章伸	40
十八、僕が大学で学んだこと	早稲田大学基幹理工学部	一年	中村章	44
十九、カナダの短期留学について	法政大学法学部	一年	藤川翼	46
二十、アニメについて	慶応義塾大学経済学部	一年	松本誠	48
二十一、編集後記	編集者		森本龍	51
役員名簿				52

人生 志を持って生きる

岩陽学舎 理事 佐倉 弘之甫

人生「人として生まれ、人として生き、人に生かされ、人を生かす」などの営みと考えると、自分の歩んだ道を懐かしく回顧できます。

錦帯橋に象徴される美しい街岩国に生まれ、小・中・高と岩国で、伸び伸びと過ごしましたが、順風満帆であったわけではなく、小・中時代に対して中途半端な高校生活を送ったことには、心底悔いがあります。しかし、ダメージはほとんどなく、唯一誰にも負けないと自負していた水泳でトップスイマーを目指してチャレンジしたいという思いから、日本体育大学に進学をしました。二年間頑張りましたが、オリンピック選手には全く歯が立たず、井の中の蛙を思い知らされました。そんな折、幸運にも体育学研究室でお世話になっていた伊藤 孝先生（公衆衛生学の専門で、当時は講師であったが、平成に入り学長に就任、日本体育大学を、カレッジからユニバーシティへ改革された）が、家を建てるから同居しないかと誘われ、書齋に住まわせていただくことになりました。このことが、教育学や体育科教育に目を向け、他の大学の学生などと交流し、様々な研究会などに積極的に参加するようになりました。昭和四三年四四年の頃であり、学生を取り巻く情勢は、学生運動が激しさを増した時期でした。何でも興味を持つ私は、こうした状況下東大闘争の様子を見学に出かけて、当時の学生のエネルギーの凄さを肌身に感じたことは、今でも鮮明に残っています。伊藤先生は、私がどんな所へ

出かけても、何をしても「自分の頭で考え自分の行動に責任を持たばいいよ」といつも笑顔で包むように接してくださったことは、私の人間形成にも大きく影響し、心からの感謝報恩の気持ちを持ち続けています。こうした体験は四十年に及ぶ教師生活の素養として、支えてくれました。

そのほか、映画監督の山田洋次さんとの出会いも私にとりまして、人生の宝ですが、そうした有名な人だけでなく、その年代、その仕事、その場所において、数えきれない人との出会いがあり、七十歳を超えた今、瀬戸内寂聴さんが「出会った人すべて一期一会と思い、大切にすると、人生は楽しいよ」と説かれた意味が理解できます。

教員生活を終えた後、縁あって、岩国市教育委員会教育長を拝命。初の日を息を吸い込み子どもらの夢と健やかひたすら祈る」と詠みました。二期八年、「志高く 豊かな心と生き抜く力を育む」を基本理念に掲げ、夢と愛と力をキーワードに、教育という仕事は、「子どもたちの将来を託された仕事である」ことを現場に伝えてきました。個に応じ、個大切に、個を生かす教育は、働き方改革の中、教師たちの課題は多く苦戦していますが、エンドレスの営みです。教育は、教師たちの力なしには、成り立ちません。意識して、自覚して、努力してくれることを期待しています。

終わりにあたり、小・中・高等々それぞれの状況に合わせて、「大切な人生 志を持って生きる」というテーマで話している要旨を紹介します。

『二度とない人生だから、主体的に生きがいを求めた人生を送つ

てほしい。

特に、若い時代は、自分探し、自分学び、自分育ての旅であることから、自らの意思でいろいろなことにチャレンジすることが大切です。

人間の内面の美しい部分を漢字一文字で表すと、「愛」です。「愛」という字の中には「心」がしっかりと受け止められており、如何に生きるかを教えてくれます。そして、志高くして一生懸命頑張ることにより、多くの素晴らしい出会いがあり、それが「縁」となって、自分の周りに人の輪ができ、日々の生活が楽しく豊かになり、「自然と「運」が向いて、思いや願いがかなえられる可能性が膨らんでくる。その「運」は、偶然的現象ではなく、志を持つて努力することにより生じたプレゼントと捉えたい。

人生を左右するのは、「能力ではなく、能力の使い方にある」ことを心のよりどころに、夢を持ち夢の広がりを楽しみながら、学びの豊かさが実感できる有意義な生活を望みます。年老いて、かけがえのない大切な人生を振り返った時、後味の悪い若き時代を過ごしたと回顧したら、それはもつたいない。』

更に、「志」という字は、武士の心と書き、「武士道」や「日本の心」を連想させる、意味の深い大切にしたい言葉で、そのためには吉川の歴史をしっかりと学び、教養を高め、生き抜く力としてほしいと願っています。

岩陽学舎は、一人一人の持ち味が存分に生かせ、人間として育ててくれる最高の環境にあると思います。皆さんのかけがえのない大

切な人生、夢の広がりを楽しんでください。



新しく公益財団法人としての看板を作成

エボシ御前

慶應義塾大学大学院 後期博士課程 二年

吉井 舜也

もののけ姫は私の好きな映画の一つである。ジブリに限らず映画全体で考えても、かなり上位にランクインしている。去年の二〇二〇年は、コロナ禍に伴う映画館の収入減によりジブリ作品が四つほど劇場で再上映された。不幸中の幸いだろうか、もののけ姫を一度映画館の大スクリーンで観てみたいという長年の夢が叶ったのはいい思い出である。

そんなもののけ姫であるが、私にとって歳を経るにつれ大分と印象の変化した人物が一人いる。エボシ御前である。メインヒロインのサンに続いてサブヒロインに位置を占めている彼女だが、そのサンとは対立関係にあつたり、シシガミの討伐に参加したりと一見悪役的な存在である。しかし、一方では女性や病人など社会的弱者をかくまい、さらには仕事を与えていたりとかどの人物であることも伺える多面的な人物でもある。加えて、エボシ御前は製鉄所であるタタラバについても優れた運営の才を発揮しているように思われる。以下、エボシ御前に関して私なりに論じることにする。

社会的弱者の味方としても描かれるエボシ御前であるが、具体的には女性には鉄を作らせ、病人には石火矢をつくらせている。ちなみに、タタラバの女性たちが大勢で床を踏み上下させている場面があるが、あれは鉄を精製するための炉に風を送り込んでいる。もち

ろん、製鉄のためには絶え間なく長時間風を送り続ける必要があったから、作中で

ひとつふたつは 赤子もふむが
みつつよつは 鬼も泣く泣く

と歌っているように、踏み作業は大変な重労働だったのである。ともあれ、鉄が穢れるという迷信を跳ね除けて、女性にも鉄づくりをさせるエボシ御前の姿勢は印象的である。石火矢をつくる病人については、ハンセン病を意識して描かれたというのが通説である。ハンセン病患者は長い間隔離の対象であり、またそれゆえ、隔離が必要なほど強い感染力を持つ病気との誤解もされてきた。実際は、ハンセン病の感染力は非常に低いものである。エボシ御前の病人にも分け隔てなく接する姿は、もちろん人権意識もあるだろうが、同時に彼らの病気が伝染るものではないということも、直感的・経験的にわかっていられるように見える。このように考えれば、エボシ御前とは迷信や信仰に惑わされない合理的な考えの持ち主であるとも言えよう。

さて、エボシ御前を合理的な考えの人物と評したが、そう思わせる描写は他にもある。彼女が経営するタタラバは、多くの人々がそこで働き生活を共にしている一種の共同体ともいえるものである。共同体というと、自給自足を基本とした村社会のようなものを想像するかもしれない。しかし、もののけ姫を観ている限り、タタラバ

で何か耕作物を栽培しているような様子はない。一方で、劇中でのエボシ御前の初登場シーンに目を向けると、牛が米俵などを担いでタタラバへの坂を上がっているのがわかる。ということは、作中のタタラバは鉄の生産に専念し、それを売ることで生活に必要な品々を得ているのだろう。もしそうなら、アシタカが牛飼いの甲六を連れ帰ったときにゴンザが「字を書いているから静かにしろ」と怒りですが、このときゴンザは値札を書いていたのかもしれない。商品の見栄えに関わるものだから、値札を書くのに真剣になるのは当然である。

もののけ姫の時代設定は室町時代であるから、「消費するためにつくる」のではなく「売るためにつくる」といった生産のあり方はかなり浸透している。漆や桑といった商品作物はその典型であるし、京都や奈良の近郊では野菜が市場に出されたりもしている。これらの農家が、生産した農作物のどれだけを自身で消費するのではなく、商品とし栽培していたかについては残念ながら私は詳しくはないので、エボシ御前がタタラバで鉄の生産のみに専念していることが一般的だったか特殊だったかは判断しかねる。ただ、同じ「売るためにつくる」にしてもエボシ御前の場合、集落を形成するほどの大規模なタタラバは注目に値する。先ほどのものけ姫の時代設定は室町時代であると述べたが、もう少し詳しく言えば、大和との戦い（坂上田村麻呂の蝦夷征討）に敗れて五〇〇年という作中の台詞から西暦一四〇〇年前後が物語の舞台だと推定できる。なぜこのようなことに言及するかといえば、実際の歴史では集落規模で生産工程をす

べて賄ってしまったような製鉄施設が出てくるのは一八世紀以降なのである。なんと三〇〇年以上も歴史を先取りしている。ここで工業の大規模化によるメリットを簡単に取り上げておくと、協業と分業があげられる。協業は大人数での労働により個人の労働効率を平均値まで押し上げ、また少数では不可能な力仕事も可能にする。もしかしたら、炉に風を送るといった重労働を女性が担っていたのもこのような協業の効果かもしれない。また分業は個人が一つの仕事に従事することで、その仕事の熟練度を上げ、生産物を質・量共に増大させる効果を持つ。このような点でエボシ御前のタタラバは、商品作物などとは一線を画した非常に生産力の高い生産施設となっている。さらに、生産力の増大も女性や病人の地位を保障することで実現しているのだから、フィクションとはいえ、大幅に時代を先取りしその利点を最大限利用しているエボシ御前の経営の才は恐るべきものである。

以上のように、エボシ御前とそのタタラバ経営に触れてきたが、実はこのタタラバのあり方は非常に資本主義的ともいえるのである。というのも、先ほど述べたように、タタラバで生産される鉄は商品であり、「売るためにつく」られている。資本主義の成立は商品交換を基礎とするので、このような生産のあり方はむしろ近代史的なものなのである。協業や分業においても作業場は一定の規模が必要であり、これもマニファクチュアや機械制大工業に見られる特徴である。また、当然だがタタラバはエボシ御前に所有されている。生産手段の私有である。これについて少し付言しておく、前近代では

主な生産手段たる土地は、名目的には領主のものであったが、農民も耕作をおこなう主体として土地を所有しているともいえる状態であった。つまり、土地の所有が二重に発生していたのである。これが資本主義では、機械などの生産手段はすべて資本家のものとなり、そこで働く労働者はいくらネジを回そうとも機械を自分のものとはいえないのである。実際、タタラバで働く者たちも、いくら働いても製鉄に必要な設備を好きなように使うことはできないだろう。

タタラバ経営を資本主義的な経営と称したが、このような経営によつてエボシ御前が社会福祉を達成していることは注目すべきである。資本主義といった場合、主要な問題点に格差が挙がるが、ものけ姫ではこのような一般の認識と逆の現象が起きているように思われるかもしれない。しかし、本来資本主義とは生産力の増大をもつて、前近代以上の豊かさや自由さを実現するものなのである。例えば、前近代的な農村では人口を抑制すべく間引きが日常におこなわれていた。現代では法律で禁止されているとはいえ、食糧がなぐ間引きをおこなうという状況は少し考えにくい。私たちは旧来の農村に牧歌的な幻想を抱きがちであるが、きたないところを見れば現代のほうがずっとマシンなのである。要するに、エボシ御前の女性や病人の保護は工業化＝資本主義化が土台となっているのである。

以上、エボシ御前のタタラバ経営について肯定的な立場を示してきたが、もちろん問題もある。タタラバ経営が自然破壊をもたらす点である。この点を巡つてエボシ御前はサンと対立しているのであるが、自然を優先的に守ればよいという簡単な問題でないことは明

らかである。というのも、タタラバで実現された福祉や厚生は工業化により達成されているからである。タタラバでの製鉄をやめてしまえばそこで働く女性や病人は、別の地でまた差別等の不自由を被るかもしれない。この意味では、サンの立場は自然のためには生活水準や人権の後退も厭わないものともいえる。実際、環境問題がさげられる昨今においても、同じような主張は多くみられるし、そのような本がよく売れていたりもする。

人間の立場に立つエボシ御前が正しいのか、自然の立場に立つサンが正しいのか、それは工業的生産が自然の循環に組み込まれていないだけに非常に難しい問題である。ただ一つ、どちらが正しくどちらが間違いという問題ではない。豊かさを求めて工業化を進めれば、子の代か孫の代か、もしくはもつと後の代かはわからないが、環境破壊によりいずれ人間は地球に住めなくなってしまうだろう。逆に、自然保護ばかりだと社会の発展は望みにくく、人間は何千年も同じ生活をしないといけないかもしれない。そもそも農業にせよ工業にせよ、意識的に自然に介入することが生産活動なのだから、ありのままの自然と共存するのは不可能である。人間と自然のどちらをとるか工業社会＝資本主義の下では常に大きな課題である。もしかししたら、このような問題意識まで踏み込んでアシタカは、人間と自然の共に生きる道はないかと問いかけたのかもしれない。

現在、先進諸国の経済成長率は軒並み停滞し、また、生態系や人間生活の維持の観点から環境問題に大きな注目が集まっている。しかし、このような状況で、別の社会のあり方や脱資本主義を声高に

掲げるとは果たしてどれほど適切なのであろうか。今回はエボシ御前に焦点を当てたが、もののけ姫はそのような問題を考える上で、私たちに多くの視点を提供してくれるに違いない。

〈追記〉今回、たたら製鉄について若干調べてみたが、実際にたたら製鉄の跡地や資料館を訪ねてみたくなった。

「私の洋楽愛」

日本大学卒業 四年

山根 隆真

皆さんは何かハマる、もしくは毎日これは必ず行うということがあるだろうか。私はある。私は洋楽が大好きで、毎日聴いている。趣味やハマるといふ領域を越えて私の生活の一部であると言っても過言ではない。気分を挙げたい時や集中する時、作業時に流す時等、様々なシーンに合った曲を聴き、生活している。勿論、この舎誌に取り組んでいる今も曲を聴きながら進めている。この舎誌という場を借りて、洋楽を好きになったきっかけや曲の探し方、好きなアーティストやこのシーンにはこの曲が最適ではというお勧め、洋楽の楽しみ方々々を紹介していきたいと思う。

最初に洋楽を好きになったきっかけを紹介する。そのきっかけは小学校低学年時に叔父が車の中で流していたNewYoのCloserという曲を聴いた時、曲のテンポやサビの部分、NewYo自身の声の綺麗さが気に入り、何度も聴かせてもらったのがきっかけである。この曲を聴いてからNewYoのリリースしている曲を調べ一曲一曲聴いていたのを今でも鮮明に覚えている。それから年を重ねるごとに洋楽好きは増していく一方であった。家にあった洋楽のCDを探し漁り、プレーヤーでよく聞いていた。このようにある洋楽が気に入り、そこから洋楽が好きになっていった。今振り返ってみると、きっかけは至ってシンプルで気に入ったものを深掘りしていった結果が今の洋楽好きに繋がっていると感じた。また、洋楽に関する思い出もある。それは高校生の時に二週間程アメリカ合衆国ワシントン州エバレットという都市にホームステイに行ったことがあり、その当時からとても気に入っていたMacklemore & RyanLewisのCan't Hold Usという曲のCDをアメリカの地で買ったことである。その当時の私は、アメリカで好きなアーティストのCDを買ったことに非常に興奮していた。そのCDは今でも大切に保管してある。私の数少ない宝物でもある。

続いて、曲の探し方を紹介する。探し方というより出逢い方といった方が当てはまるかもしれない。実際自ら探すというより、ふと耳に入った曲を好きになることが多いからである。最初に一つ目の方法は、お店やCM等で自然と耳に入ってきた曲を気に入って探すという出合い方である。何故かふらっと耳に入ってきた曲を好きに

なることが多く、特に気に入った曲に関してはこの曲と出会う運命なのではないかと思うぐらいである。しかし、この方法はいい曲だなと感じても、曲名とアーティスト名までは不明で、聞こえてくる歌詞の一部やメロディーを基に必死に探していたが、最近では Shazam というアプリがリリースされ、曲が流れている時にこのアプリを起動させ、iPhone のマイク部分を近づけるだけで、自動的にその曲名、アーティストを識別してくれて、一発で知ることが出来るようになった。さらに Apple Music と連携させれば、識別した瞬間に Apple Music の方にダウンロードすることが出来るので、とてもストレスフリーになった。このアプリのおかげで、必死に探す手間が省け、とても効率的になったと感じている。そして、二番目に多いのはある曲を好きになって、そのアーティストの他の曲を色々聴いている時にまた新たに気に入った曲に出逢うというのが多い。最後に三つ目の方法は YouTube でたまたまおすすめて挙がってきた洋楽の PV を見て気に入る、または映画や洋ドラマの主題歌及び挿入曲を気に入る、調べて見つけるという方法である。ここ最近では、「ボヘミアン・ラプソディー」という Queen のフレディ・マーキュリーを題材とした映画を観て、Queen の曲にドハマりし、約一か月ほど毎日聴いていた時がある。今までよく耳にしていた曲のサビから曲名を知ることができ、映画を観たことよって作曲の背景も知ることができ、今まであまり知らなかった Queen について知ることができた。洋楽好きということから色々なことに紐づき、点と点が線で繋がるのはこういうことを言うのだろうなと感じ、嬉しくなった。

次に好きなアーティストを紹介しようと思う。今まで本当に数多くのアーティストの曲を聴いてきたが、正直言うと多すぎて紹介しきれない程好きなアーティストがいる。恐らく一人一人紹介していくと、舎誌の字数制限を大幅に超えてしまうと思うので、好きでかつ歌詞に感銘を受けたアーティストを紹介しようと思う。そのアーティストとは Avicii である。有名なアーティストであり、洋楽好きなら知らない人はいないのではないだろうか。本当に数多くの素晴らしい楽曲を残してきた彼だが、実はもう亡くなってしまっている。私自身この訃報には非常にショックを受けたことを今でも鮮明に覚えている。そして、そんな若くして亡くなってしまった彼の「The Nights」という曲が今まで聴いてきた洋楽の中で一番好きで、感銘を受けた曲である。

この曲の歌詞の中に「Live a life you will remember」という歌詞がある。直訳すると「あなたが憶えているような人生を生きなさい」であるが、私は「後で色々と思い出せるような生き方をしなさい」と解釈した。言葉自体は単純に感じるかもしれないが、この曲を聴き、さらに歌詞の意味を考えて聴いていると、非常に深い言葉であるなど感じた。一度きりしかない人生の中で自分がどのように生きたいのか、何をしたいのか、どんなことを成し遂げていくのか等々、このワンフレーズだけで色々なことを考えることができ、結果として、自分がこのように人生を歩んでいこうと様々な決断する時はこの言葉が軸となっている。この言葉は本当に自分の生き方に対する考え方を形成してくれた言葉であり、この曲に出逢えて本当

に良かったと感じている。

最後に、私なりの洋楽の楽しみ方を紹介しようと思う。その楽しみ方とはその曲の歌詞を翻訳し、様々な解釈をして、想像を膨らませることである。普通に曲を聴いて楽しむのも良いが、歌詞の意味を考えて改めて聴いてみると、また違った良さを感じる。さらに、その曲のPVを観ながら歌詞の意味を考えると、より一層歌詞の意味を汲み取ることができ、またその曲のことを好きになってしまっていると思う。この楽しみ方に至ってから、洋楽愛が日に日に増して行っていると思う。

以上私の洋楽愛について述べてきたが、残念なことに私の洋楽愛に共感してくれる人がほほいないということだ。本音を言うと、共感してもらえて、色々良さを語りたいたいが、恐らく自己満足であると感じているので、これからも自分の洋楽愛を追求し、磨き上げていきたいと思っている。皆さんにも是非洋楽の良さを知ってもらいたいと思っている。



玄関を入れて右がメールボックス
左が宅配ボックス

踏ん切りは夢の中で

早稲田大学 文化構想学部 四年

石村 航

今年も、舎誌発刊の時期がやって来た。「四回目ですから、書けるようになったでしょう。」残念ながら、今年もご要望には添えないようです。期待に応えるべく始めた題目決定も、気休めであつたらしい。筆を進めるほどには至らなかつた。以降、怠惰な日々が続き、登板当日がやって来た。登板前には毎度決まつて、「こう思う。「いつもと違う場所でもまた心休めをしたいなあ。」

旅への誘惑が、自分に都合の悪い現実を避けるために、湧き上がってくる。突飛なことをしたい一種の好奇心から想起させられるのだろう。突如出ていく突飛さは少年の冒険の様相を呈している。「いい大人」の癖にねえ…。そんな形で、急に東京（現実）から違う場所に飛び出してしまったことが多々ある。

昨年の秋に道後温泉を訪れた。当時、大学では、学科内の委員会にて、新しく企画する仕事があつた。一方で、就職活動では、インターンシップ参画や早期選考対策の必要があり、これらが重くのしかかつていた。新しいものを生み出さねばならない、就活で結果を出さなければならぬ。そんな義務感が、陰鬱な表情という形で毎日付き纏っていた。（一つ注意するが、就職活動は陰鬱な面だけでは

なく、社会人や企業と、自分の関心が適合した時に快感と期待を抱ける面白い側面もある。それに対し、理想通りにならない自分を愛したいとも感じた。一度今を忘れ、心を空にしてまた考え歩き出そう。踏ん切りをつけるべく、我が身を違う場所に委ねよう。そう思い立ち、夜行電車に乗り込み、温泉地へと足を運んだ。そこからは、予定も立てず、限られた日程内で気の向くままにその地を巡った。

まるで家出少年のような我儘な行動で呆れ返っているが、ふと出てみると悪いこと尽くしではなかった。どうやら私は、「ひとり旅」に対して、その地の第三者として、自分の思い通りに考え、過ごすことに魅力を感じるようだ。

「ひとり旅が好きだ。」と共有すると、「寂しい。」「一人ぼっちで楽しくないんじゃないか」と共感されない事も多い。確かに旅先で複数人が楽しそうに歩くのを見ると、寂しく空虚な気持ちにならざるを得ない。だったら誰かと一緒に旅に出るよと頭を叩かれそうだが、他人がいると自分のペースが崩されてどうも落ち着かない。自分のペース、望んだ場所全てに行けないような集団の制約か、これは問題ない。行きたいという欲望がその地と私を結び続け、安心してきている。そうではなく、集団の調和について色々と考えるのだ。

修学旅行や合宿のグループ行動では、「会話に入らなければ」、「他の人の意向を聞かなければ」と考えてしまう。こうした考えが、飲み会のコールのように私の心を騒ぎ立て、風景やものに集中できなくなる。我慢ならないほど苦しい。だから他者との旅を積極的に選ば

ないのだろうし、逆にそれを「ひとり旅」の醍醐味として実感したのだろう。

特に、感覚を研ぎ澄まされるのが、酒場にその身を委ねた時だ。酒場に入ることも、二十歳を過ぎて増えてきた。先輩方の教えに加え、地酒と地元のうまいものを頂きたい、という観光客的な発想から始めた。初心はそのままに、その地域の方の特徴を「眺める」という、その血を通り過ぎる「旅人」的発想が主な目的になっている。

どんなことを話題にし、どんな生活リズムで暮らすのか。こうしたことを周囲の人々の会話から感じ取る。一種の「人間観察」だ。観察されている側からすれば、勝手に聞かれて気色が悪い、プライベートを侵害しおつて、と感じずにはいられないだろう。それも承知で、心の中で毎回怒られ謝りつつ勝手に聞く、この活動を大切にしている。常日頃は、人の関心や発した考えに合わせることを繰り返してしまっている。ただ、食事を交え、より五感を研ぎ澄ませることで、自分の関心を受け入れ、それらに集中できる。狂った己の理性からの怒号ではなく、物の名前を尋ねてくる幼子のような問いかけだ。純粹な問答は、陰鬱とした脳内に、新鮮な空気をもたらしてくれる。抑圧してしまう感情と直感を解放するためにも、背徳感を持って実行している。こうして、幾度も違う土地に自分で身を置く中で、その場の楽しみ方・過ごし方を見出してきた。

大方、旅という現実逃避を終えると、心も身体も軽やかになる。昨年の秋の旅の後、インターンシップへの募集や企画の発案に着手

し始めたように、幾らかはマシにはなる。ただ、心にはつつかえが残る。どうやら、踏ん切りと称する「お膳立て」なしに動けるのが、私の理性のお好みらしい。逃げてしまった自分・時間、失ったものをぶり返すネガティブ思考の権化が、再び野次を飛ばしてくる。機関銃で蜂の巣になった私の心に陰鬱が入り込んでくる。現実逃避しなくなるが、今度こそ現実と戦わねばならない。

こんな時には、ふと本屋に立ち寄り、不安をかき消すヒントになる本を買い、勇気を貰っている。しかし、買った時の新鮮な熱意は、自分の手に渡った途端失われていく。読まず積み上げ続ける。一般的に積ん読をされる方は、読む意識を行動に移せていらっしやる(印象がある)。しかし、私は、集めているだけのコレクターでしかない。由々しき事態だが、恩恵に近いものもある。集めてきた本の背表紙を眺めると、自己啓発なら、至らない点を直したかったというように、手に取った時の未練を思い返し、気力を得るようになった。積ん読の特徴を「本から念波を発している」とある人は評していた(記憶がある)が、諦めず行動し続けるよう呼びかけてくる言葉が、私にとつての念波なのだろう。この「積ん読らしい本集め」にも意味があったと、書籍いっぱいの本棚を眺め、そう考えた。

綺麗事のように収めたが、本にせよ、旅にせよ、これをすれば今を、自分を変えられる引き金だ、そう位置付けてやまない。やすやすと蘇生魔法は手に入らないし、そんなものは鼻から存在しはしな

いにも関わらず……。残念ながら、入学当時から、この傾向は変わってないらしい。歴代の舎誌を見返すと、「新年の抱負」のように、最後の一文で必ず踏ん切りをつけ、目標で留まるケースが多かった。後の自分に期待し、理想のままにし続けている。走ることにできてはいない。走り続けるには紙に書くのがいいだとか、自分を責めすぎないだとか、月並みな解決策はよく出てくる。いずれも自分にグツとくるものではない。自分のものではない感覚がある。(言い訳は続く)

この感覚は、自分に合うようになってきていない、と言うぼうつと生きた結果生まれたものである。では、「ぼうつと生きている」とは？「発言や思想に対し、やる責任と覚悟を持って取り組もうとしない」事ではないか。旅人として、地域の方の会話を聞くだけの行為も、野次馬として、自分の物語の叙述を放棄しているのではないか。買って本を集める行為でも、目標を浮かべるだけだ。思い返す行為も昔は良かったと嘆く人間と何も変わらないだろう。亡くなった身近な方の「やりたいことをやれ」。この言葉の裏に、「誰かが言ったから」、「従ったから」とか、言い訳をして行動を狭め、心を怯えさせてはならない。自身の行動と、その人の生に思いを馳せながら、なおさら逃げていた自分に失望してしまうのだ。

何かをする前には決まって、途方もない思考の堂々巡りが続いていく。絶えず絶えず駆け巡る精神世界に目を向ける人間には、目の

前の出来事には興味がないらしい。「前向いて、手を出してみろよ。」
そう**踏み切りをつければ**、冗長的で薄い思考を止め、現実でも頑張れるだろう。



ミニキッチンは電熱器からIHコンロへ

マンガの表現技法―芦毛の怪物編

立教大学 社会学部現代文化学科 四年

松澤 優介

今年もこの季節がやって来た。「舎誌」毎年この季節になると、舎生は一生懸命舎誌を執筆する。しかし、この舎誌をすっかり読んでくださったという人々は、この世界に一体何人いるのだろうか。また、何度も読み直すという人々はそもそも存在するのだろうか。大学生は意外と忙しい。学業や部活、アルバイト、遊びなど、人生を

豊かにするためにみんなさまざまなことに打ち込んでいる。舎誌を執筆する手間とその見返りがあまりにも見合っていないと感じてやまないが、愚痴はこのくらいにして今年も元気に舎誌を執筆する！

これまで私は、愛するチェルシーFC（イングランド・プレミアリーグに所属するフットボールチーム）についてや音楽ライブのライブレポートをテーマに舎誌を執筆してきたが、今回は大学の講義で学習した内容について執筆しようと思う。

今回、私は集英社の青年コミック誌である『週刊ヤングジャンプ』にて現在連載中の作品「ウマ娘 シンデレラグレイ」について、作中で用いられている表現技法を具体的に分析し、論述する。

最初に、「ウマ娘 シンデレラグレイ」とは、現在、ゲームやテレビアニメ、マンガなど、多方面に展開しているメディアミックスコンテンツ「ウマ娘 プリティーダービー」の最新シリーズである。最近、テレビアニメ第二期の放送やアプリゲームのリリースなどで世間を大いに賑わせたので、その名前を耳にしたことがある人も少なくないのではないだろうか。「ウマ娘」の世界では、現実世界で活躍した競走馬たちの名前と魂を受け継いだキャラクターである「ウマ娘」たちの陸上競技が大人気であり、ウマ娘たちはレースでの勝利を目指し、日々トレーニングに励んでいる。「ウマ娘 シンデレラグレイ」の主人公は芦毛の怪物・オグリキャップである。本作は地方で育ったオグリキャップが中央で伝説となり、「怪物」と呼ばれるまでのシンデレラストoryである。

それでは、分析に入る。「ウマ娘 シンデレラグレイ」では、レー

ス中、主人公など特定のウマ娘を除いて、同じレースを走る他のウマ娘やゴールの場所が隠されることがある。

これは、他のウマ娘やゴールの場所を隠すことで、描写される主人公や主要キャラのウマ娘が、現在コースのどの辺りを走っているのか曖昧にしており、ラマチャンドランの美の法則で、「部分的に隠れているもの、すぐには見えないものを好む」【いないいないばあ、もしくは知覚の問題解決】が用いられていると考えられる。コースのどの辺りを走っているのか曖昧にすることで、我々読者は「現在何位なのだろうか」「ゴールまであと何mなのだろうか」という緊張感を持たされ、マンガなのにも関わらず、実際の競馬のレース中のような緊迫感を演出している。

次に、本作品はレース中の実況者や観客のセリフ、疾走するウマ娘たちの擬音が特徴的で、同じくラマチャンドランの美の法則で、視覚的な隠喩表現である【メタファー】が用いられていると考えられる。

例えば、登場人物によりセリフのフキダシが主人公はシンプルな丸い形、主人公の親友の優しいキャラクターはふわふわな雲のような形など、ある程度決まっており、レース中のような多くのキャラクターが話す場面などもフキダシだけである程度どのキャラクターが話しているか理解できる。また、フキダシの大小にキャラクターの感情が表現されており、例えば、実況者のフキダシだ。レース序盤、実況者のフキダシは小さめだが、レースが後半になるにつれ、段々と大きくなっていく。フキダシの大きさによってレース序盤の

落ち着いた雰囲気やレース後半の興奮や高揚感などの迫力を表現している。

迫力といえ、ウマ娘たちの擬音にも【メタファー】が用いられていると考えられる。例えば、疾走するウマ娘たちの「ドドド」という擬音一つとって見ても、レース序盤は小さめに書かれており、ウマ娘たちが互いに様子を伺い、落ち着いたレースが展開されているような表現がされているが、レース終盤では、コマからはみ出るほど大きく、また書体もゴツゴツと荒々しく強調されて書かれており、レース終盤のウマ娘たちの一位争い、激しい攻防が表現されている。中でも印象的な擬音は、第三R『信じて良いかも』のオグリキャップがレース終盤、ラストスパートで地面を思い切り踏み込み、速度を上げる場面の「ズン」と「ドッ」で、「ズン」はコマからはみ出し、「ドッ」はコマいっぱいにはみ出さず、もはや読めるか分からないほど荒々しく書かれており、オグリキャップのまるで怪物のような脚力が迫力満点で描かれている。

次に、本作品は奥行きを表現するために【重なり】も用いられていると考えられる。

相対的位置関係、大きさ、重なりが組み合わせられており、レース終盤にオグリキャップが下位から追い上げてくる場面などはしっかりと奥行きが表現されている。

さらに、【陰影】も用いられていると考えられ、キャラクターが立体的に描かれている。

ウマ娘は馬の擬人化であり、耳や尻尾が生えており、日常的な場

面でさえ、細かく丁寧な陰影表現が必要とされると考えられるが、レース中も疾走するウマ娘たちの耳や尻尾はもちろん、目の彫りや顎下、ジャージのシワ、靴の汚れなど、さまざまな形状や素材のものも非常に細かく明度の変化をつけて立体的に表現されている。

「ウマ娘 シンデレラグレイ」は実際の競馬のような迫力、熱気を演出するためにさまざまな表現技法が用いられていると考えられる。主人公・オグリキャップの地方から中央を折檻するシンデレラストーリーも見応え満載のため、競馬に興味がなくとも是非「ウマ娘 シンデレラグレイ」を読んでいただきたい。

二〇二一年現在、アニメやマンガ、ゲームなどのサブカルチャーは日本の主流な文化となった。

「マンガなんて一切読まない！」という人はほとんどいないだろう。では、マンガを読む人々の中でどのくらいの人々がその表現技法にまで着目しているのだろうか。ただストーリーを追ったり、キャラクターの気持ちに寄り添うことももちろん楽しいが、表現技法にも注目してみしてほしい。きつとあなたのマンガの世界は大きく広がるだろう。



室内からベランダ方向

学び舎に帰ろう

帝京大学 法学部法律学科 四年

川村 恭史

セミの鳴き声で夢から目覚めた。時計の針は午前六時を指している。夢というものは不思議なもので時間が経つと断片的にしか思い出せない。しかし、この日の夢は鮮明に覚えていた。夢というよりは記憶の方が近いかもしれない。それは一年前の記憶。ちょうど去年、第五十号の舎誌の編集と発行を行っていた。またこの季節が来たのかとふと振り返りながら僕は、パソコンを立ち上げ呟いた「これが私の学生最後の舎誌だな」と。でも何を書こうか思いつかない。だって暇ないし、二週間後公務員試験受けるから時間なんて……。という感じで二百四十字を稼いだ訳だが、大学生活の節目も近いので振り返りを綴っていこう。

まず、この寮に入った経緯。東京の学生寮探ししていた時に父から教えてもらったのが始まりで、募集締め切り間近十募集要項に寮から一時間以内（僕の場合は片道二時間）という問題抱え、そもそも受かる要素が絶望的。でも、あたかも理知的な作文と面接で真面目さと胡麻すりで合格を頂いた感じかな。

次に大学編。一年の時の僕は結構バタバタしてたような気がする。初めて講義を選択し、授業を受ける環境と一人暮らして時間を如何に有効に使うかそればかり考えて行動をする生活。特に通学時間は往復四時間の長時間のため大学の図書館で本を借りて通学中に読む。

そんな生活をしながら、単位認定試験では十一科目の各教授と質問を積極的に行い、ヒントを貰うなどしてできるだけ情報を集める。でないとも、成績表が親に届いたとき少し怖い。(授業の出席情報も全て親にメールで通知される日常) 試験が終わり、夏休みに入ると議員インターンシップに参加し、委員会や本会議の傍聴や行政の働きといった見聞を広め、帰省時には学舎の説明会で高校生にパワポを使った発表を行い、その次の日は学舎OB会で司会を担当しました。今考えるとオーバー過ぎい！夏休みが終わると大学の知り合いと後期の授業を履修登録してお酒を飲んだりしていました。なんか「男の娘なの！」とか言ってる輩に抱き着かれたり衝撃的な思い出作りをした覚えが……。他にも、寮の先輩である吉井先輩と一緒に渋谷に行って二郎系ラーメン食べに行ったり、その後も沢山の先輩方と行動を共にすることがあったなど覚えていきます。ちなみに、後期も単位は順調に取得できた。余談ですが、大学でサークルは法学研究会という法律を勉強するサークルで副会長をさせてもらっていました。但し、入って三か月で会長失踪によりサークルは消滅しました。その後、サークルに入ることはありませんでした。大学二年では、寮でIT担当を任されてホームページの管理等をやりました。この年はゴールデンウィークが十日あって皆ウキウキわくわくしていたようですが、僕は急性胃腸炎により殆ど高熱と昼夜問わず三十分毎に下痢というかなりハードな生活をしていました。二年生の時は特に語ることはないですが、夏休みの高校生向けの説明会や創才セミナーで学生スタッフ、学舎舎友会で司会をしました。二年後期で

は二十歳を迎えただけあって沢山お酒を飲み過ぎて布団の上でネゲロしてしまったりしました。

そして大学三年では進路を考えだす時期になってきて僕は公務員の道へ大きく舵を切りました。この道はかなり苦難の道のでした。コロナウイルスによりリモートによる授業が大学と公務員学校それぞれで行われているため少し戸惑いました。特に大学の授業はZOOMではなく音声とレジュメだけの授業という授業料をドブに捨てているようで複雑な思いでした。また、学舎での仕事も上級生になるに連れて求められる役割も重いものになりました。広報の仕事はSNSの投稿や舎報、舎誌の発行と言うだけなら楽ですが、発行物は締め切り関連の問題やSNSでは投稿内容のアイデアなどかなり頭を悩ませるといふか腹が黒くなりました。特に締め切り関連では締め切りを破る文化が定着しているせいなのか困る部分で最初の内は「統合失調症になりそう！」とか冗談言っていました。十月頃になると来年の五月ごろに行われる公務員試験のために本格的な勉強に入る必要があるにもかかわらず舎誌の編集すら終わっていないこと。十一月の学舎OBと共同で行う大掃除の調整という仕事が来たりとかなり不味い状況になっていました。そこで印刷会社との調整が始まっていることをチラつかせるハツタリをかまして未提出の輩の尻を叩いて出してもらいました。十月中旬からは公務員学校から休憩中に抜け出し、印刷会社と舎誌の大まかな流れと細部までを舎監さんと協力の下、協議してその日の決め事が終わると公務員学校に戻って授業を受けるといった生活によって十月下旬に完成し、十一月

九日に一部に届く感じで舎誌の発行は完了しました。この時期は本当に鍛えられた感じがします。もう一度は勘弁して（泣）その後も大掃除イベントもつつがなく終わったものの、公務員試験の準備が十分ではない予感だったので今年の一月に民間方面の就職活動に転換しました。急な方針転換のために業界の知識や自分がどの道に進みたいかどうか分からない最悪な状態での就職活動が始まる。民間の就職も簡単ではない時世も災いしてか中々実らず、この舎誌のお題も『N回目の不採用通知』にしようか悩んだ程上手くいかなかった。それでも当たって砕ける精神で色々試行錯誤しながらSPI試験対策と面接対策をしてなんとか二社内定をもらうことが出来ました。そして今この時期は、諦めていた公務員試験の勉強を再開して試験を終え、東京に帰る新幹線の車中でこの舎誌を書いている。

公務員試験の二日前にコロナウイルスのワクチン接種をしたためか本調子ではないものの無事に終わることが出来ました。品川駅に着き、京浜東北線に乗り換えて大森駅で降りて学舎に向けて歩きながら僕は今こんなことを考えています。大学生の時間も残り僅か、始まりを迎えるものは必ず終わりが来る。分かっていることだけどもわりを悟ることができる分、短い時間を有効に使っていこうと僕は考えている。フリードリヒ・フォン・シラーの詩で「Dreifach ist der Schritt der Zeit: Zoegernd kommt die Zukunft hergezogen Pfeilschnell ist das Jetzt entfliegen Ewig still steht die Vergangenheit.」というものが頭をよぎった。意味は「時の歩みは三重である：未来はためらいつつ近づき、現在は矢のように速く

飛び去り、過去は永久に静かに立っている」という。岩国から学舎に帰る道のりで置き去りにしてきた過去を振り返った一日は空を夕焼けに染めていく。学舎に帰ってきた僕は呟いたこれから走り抜けていく未来に向けて「ただいま！」と。

さあ、ためらいつつも近づいてくる月曜日を迎えに行こう。
僕はパソコンを閉じた。

――

メディアの歴史とこれから

東京工業大学 工学院システム制御学科 三年

森本 龍

近年SNSやYouTubeといったコンテンツが発展してきたことによつて誰しもがインターネットを用いて発信することができるようになった。それにともない、かつてはマスメディアの多くはコンテンツとプラットフォームの支配者であったが今はどんなコンテンツでもプラットフォームによらず自由に流通することが出来る。代表的な例としてニュースというコンテンツは今までテレビ、新聞とい

うメディアに支配されていたが、今では様々なメディア上でニュースは展開されている。またインターネット上において発信したものが自分の思っていないほどに拡散されることや、テレビのニュースよりも早く広がることもあり誰でもマスメディアになり得られるようになった。電車の遅延情報は Twitter などの SNS の方が早いことがあるし、SNS での炎上に代表されるように何気ない発信がかなりの人数の人にまで広がることもある。マスメディアに誰でもなり得ることが出来るこの状況ではメディアの性質について教養をもっておくことは大事である。ここではメディアの歴史、人間のメディア性をみた後に、これからのメディアについて考える。

最初にメディアの定義についてだが、媒体、手段、マスコミュニケーションと辞書に記されていることが多い。英単語としても習った通りである媒体、手段とあるが、何をする際の媒体、手段なのかは明らかでない。テレビ、新聞、ラジオはよくあげられるメディアである。ここではメディアとは人間の感覚、身体機能を拡張するものすべてと定義して話を進める。

メディアの歴史を見ていく。人間がまだ形つくられていない昔、その時代にもメディアは存在する。それは生物すべてである。生物は遺伝情報というコンテンツを次世代に伝えるという点でメディアといえる。その際に生物が生きていく中でより生き残りやすい、より次世代に伝えやすい遺伝子が選別されていく、これは遺伝子がコンテンツとなったメディアである。しかし生物のなかでも、人間がほかの生物と異なるところは、大脳皮質によって学習することであ

る。また人間という生き物が一人では生きていけない生き物であることもあって人間は様々なメディアを発達させていくことになる。

まずは身振り、手振りが生まれた。これによって自分以外に思想、意志を伝えることが可能となった。次に言語が発生して、より伝達できることが増えた。言語というリアルタイムでの伝達はそれではなかったが、一度得た経験や、記憶を過去から未来に伝達するためのメディアが必要となり文字が生まれた。象形文字やくさび形文字などがこれに当たる。

その後は言語、文字をより多くの人に伝達するための手段がうまくれていくことになる。様々なものがあるが、本や演説などである。本といっても、著者が一冊の本を書き上げそれを回して読むためマスメディアにはなり得なかった。

そんな中、産業革命によって急激にマスメディアが誕生した。それは活版印刷技術によって生まれた新聞である。これまでは身近な人々としか情報、感覚を媒体してくれなかったメディアが、遠い第三者との間をつなぎまたその内容が新聞を読んでいるほかの読者と共有するようになった。新聞は文字を用いたメディアであるが、言語をつかったマスメディアも生まれた。ラジオである。

マスメディアが生まれたことによって、より一般の人にも情報が伝達されるようになった。そのため政治的にもメディアは使われるようになった。ヒトラーはラジオで国民に語りかけその際にラジオというメディアの特徴を使いこなすことによって国民を洗脳した。ラジオの特徴は音だけが伝わるという点である。この声だけが伝わ

ることである。聞いている人は語りかけられているように感じ、強いメッセージ性を感じ取った。この例に表されるようにマスメディアの影響力ははかりしれないものとなった。その後も様々な技術が発達しテレビがマスメディアとなった。

このようにメディアの進化をみていったが、言語と文字だけがメディアであった時代からみると、近年のメディアの進化を予想はできないし、ここ数年でも予想するのは難しいように思える。テレビの登場あたりまではテレビ、新聞がマスメディアとして成立していたが、いまではシェアの大きい各プラットフォームがマスメディアとなるプラットフォームビジネスが展開されている。このビジネスを今形成し、巨大なものといえればGAF Aである。かつての広告中核はマスメディアであったが、今ではフェイスブック、Googleは広告中核をマスメディアから奪っており、じつさに売り上げの多くを広告収入でしめている。Googleは検索連動広告、フェイスブックは登録情報をもとに莫大な登録者に対してランダムに広告をおくり、それを分析することで最適化している。このように広告がより確実に多数に届き、また正確で効率的に広告が届くシステムを構成しているのだ。アップル、マイクロソフト、アマゾンそれぞれの分野でほぼ独占的といえるほどのシェアを勝ち取ったプラットフォームが存在する。

プラットフォームビジネスについてみていったが、これらのプラットフォームが各分野で独占的になったのは、ユーザーを限定せずより多くの人に必要とされるプラットフォームを作ったからである。

それに伴って新しい商品がそのプラットフォームで展開されることで、ユーザーはそのプラットフォームを手にする必要が出てくる。これはゲーム端末に関しても同じことがいえる。日本発症であるポケモンなどはゲーム端末をプラットフォームにしたコンテンツである。新しいゲーム端末がでると、その端末上で新しいコンテンツ展開されるため、そのゲーム端末を手にする必要がでてくる。

このように今のメディアは多くの人から必要とされるプラットフォームをもっている。このプラットフォームというものに着目するのがこれからのメディアの誕生にあたって重要であると考ええる。その新しいプラットフォームはおそらくだが、インターネットの誕生を昔の人が予測できなかったように革新的なものであるため、SF的な発想力と技術が欠かせないだろう。



鏡付クローゼット(右)と片開き戸(中央)

エッセイ コロナの大学生活

東京工業大学 物質理工学院材料学科 三年

長藤 瑛哉

新型コロナウイルスが蔓延し始めて早くも二年が経とうとしています。日本でも徐々にワクチン接種が進んでいます。コロナの流行が収まる気配はなく、コロナ前の状況にいつ戻れるのか全く検討もつきません。このような状況なので大学生活もかなり制限されたままとなっています。私の所属する東京工業大学でも三年連続で大学祭が中止となり、学部三年生の私はまだ一度も大学祭に参加出来ていません。また、対面での授業は実験だけなので、大学に登校する回数は年間二十回程度です。ただ、このような現状に不満を言っているだけでは、何も変わらないので、エッセイ コロナの時代をどのように過ごして行くべきか自分なりにこの二年の間に模索してきました。今回は、私がどのようにエッセイ コロナの大学生活と向き合ったのかをお話したいと思います。

コロナ前の私は、東急電鉄で通勤ラッシュ時の乗客の押し込みをするバイトをしていました。ただ、コロナの感染拡大に伴い、急速にテレワークが普及し、通勤ラッシュがコロナ前ほどではなくなっていました。乗客押し込みバイトがなくなっていました。突然、生活費を稼ぐあてがなくなってしまう、当時の私は大変焦りました。しかし、幸運なことに、あまりシフトに入っていなかった塾のバイトがコロナの流行を機に、しばらくの間は在宅でできるよ

うになったことを知り、半年間はこのバイトで食いつなぐことが出来ました。この時、私は在宅でバイトができる素晴らしさを知ってしまいました。この塾のバイトが対面に戻るまでの間に、複数の在宅バイトを始め、今では在宅バイトだけで必要な生活費を稼げるようになりました。在宅のバイトは勤務地に行く手間もなく、余計な人間関係にも煩わされることもないので、私にとっては良い事づくめでした。このように、一時は仕事を失って窮地に追い込まれましたが、今ではコロナ前よりいい労働環境で働いています。

大学の講義に関しては、実験以外すべてオンラインになりました。いきなりオンライン講義が始まったこともあり、同じ学部の友人ができず、コロナ禍の最初の頃は大変不安を感じていました。講義を一人で受けていると自分は本当に理解できているのかもよく分からず、友人と議論もできないので大学で学ぶ意義を見失ってしまいました。こともありました。ただ、現状に不満があつて文句を言っているだけではろくな大人になれないので、自身の置かれた状況を改善するための様々な努力を行いました。例えば、オンラインで開催される交流会や催し物に積極的に参加し、同じ学部の友人を見つけて仲良くなり、レポート課題などについて、Zoomを繋ぎながら議論したり、複数人でのZoomを繋ぎながらの勉強会を開いたりしました。また、オンライン講義をずっと受講しているとだんだん慣れてきて、対面講義よりむしろオンライン講義の方がいいのではないかと思うようになってきました。私が思うオンライン講義の利点を三つ紹介したいと思います。一つ目は、オンライン講義のおかげで、朝の通勤ラ

ツシユの時間帯に通学しなくてよくなる点です。上京した当初は、東京の通勤ラッシュが本当に嫌で、大学に行きたくなくなることも多々ありました。特に、梅雨の時期は電車内が人の体温と汗で、蒸し暑く大変不快でした。この苦痛から解放されたのはひとえにオンライン講義のおかげだと思います。二つ目は、実家でも講義が受けられる点です。大学に通学する必要がないなら、東京にいる必要がないので、私は一年の大半を岩国の実家で過ごしながら、講義を受講しました。実家にいれば、美味しいご飯が食べられて、広いお風呂があつて、とても幸せでした。オンライン講義のおかげで一年の三分の一くらいは岩国の実家で過ごせるのでとても嬉しいです。三つ目は、講義の録画を見て、何度も復習ができる点です。僕の通う東工大では、多くの講義で録画動画が受講者に対して公開されたので復習する際に大変やりやすかったです。以上のようにオンライン講義にもメリットは大変多く、個人的には実験やゼミ以外は全部オンラインでやり続けて欲しいと思っています。

私生活においては、コロナ禍の影響で、モチベーションが低下したり、運動不足になったりしました。コロナ前は色々なイベントに参加して、頑張っている人の話を聞いて、自分も頑張らなくては何とモチベーションを得ていました。それが急に家の中にこもって誰とも交流しない状況になると何もやる気が起きず、一ヶ月くらいはアニメを見ながらダラダラしていました。さすがに、これではまずいと思ひ、オンラインで活動のできる大学のGに応募し、そこで色々な人と仲良くなって色々な話をし、少しずつモチベーションを回復さ

せていきました。また、コロナ禍が長引くに連れて、筋肉がだんだん落ちてきて腰痛に悩まされた時もありました。コロナ前は岩陽学舎は駅から遠いと文句を言っていたのですが、それがいい運動になっていたんだなとしみじみと感じました。腰痛が出てきてこのままだとまずいと思ひ、YouTubeで筋トレ動画を見ながらのトレーニングを始めたところ、思ひのほか楽しく、今では筋トレがちよつとした趣味のようになりました。筋トレを初めてからは腰痛に悩まされることも無く、心無しか姿勢が良くなった気がしています。

サークル活動に関しては、運動系のサークルに入っていなかったもので、コロナのせいで全く活動できないということにはなりませんでした。ただ、オンラインでも活動できる内容に活動内容を変更せざるを得ませんでした。所属しているサークルの一つでは、コロナ前は対面での講演会を企画していましたが、それができないということになり、オンライン講演会を企画することになりました。オンラインでの講演会の企画は誰も経験したことがなく、みんな手探りで準備を進めていきました。女性で真打ちの落語家さんをお呼びして、オンライン講演会を行った際には二〇〇人近くの参加者が集まり、講演会は大成功に終わりました。大学の友人と一緒に何かつかを作りに上げるという経験がオンラインでもできたことに大変感動しました。

以上が僕が経験したエピソード、コロナの大学生活です。コロナ禍初期の頃こそ、うまくいかないことが多かったものの、何とか適応し、今ではコロナ前より快適に楽しく大学生活を送れています。

The prosperity of English and its future

早稲田大学 教育学部英語英文学科 3年
國次 伶

This year, unusually, I would like to write my essay in English and its content is English language because I'm majoring in English language and Literature at university.

As everyone knows, English is the most famous and influential language in the world. Now, it is no exaggeration to say that almost all people all over the world study it from childhood and we see and hear the English language everyday in our daily lives since it is used everywhere in the world. According to the website of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) which is based on the statistical data of *Time: Almanac 2005* published in 2004, more than 500 million people in the world use English and among them, 400 million people use it as their mother tongue. We can also understand how influential English is by seeing statistical data, so it can be said that it has surely been established a strong position as a universal language which everyone knows. However, have you ever wondered why English has become powerful and prospered like this? Have you ever wondered if English will continue to be the universal language? The purpose of this paper is to reveal causes of the prosperity of English and its future. There are some specific reasons of the prosperity of English that relates its history, lingual characteristics and so forth. After discussing them, its future would be discussed next.

First of all, we need to know English history to understand how English has been formed. Actually, it has not only influenced many languages, but also been influenced by many languages. It goes without saying that although English is used globally, its origin came from the U.K which locates at Great Britain. From 4th century, many Germanic people who came from north Germany, Denmark and Scandinavia peninsula migrated to Great Britain. Because of this, the language that was originally spoken in Great Britain was German language which became Old English. Thus, a lot of English words originated from German language. Moreover, Old Nordic that were spoken by Danish people who conquered Great Britain in 11th century also affected English vocabulary. Then, at the period of Middle English, Normans who spoke French language conquered Great Britain. Under Norman conquest, there were two types of people's languages in England. Ruling class spoke French language and ruled class spoke English language. Finally, English succeeded in reviving as the official language and people stopped speaking French language. However, the influences of

French on English were so significant that quite a lot of English word such as “beef” and “pork” came from French. In this way, English has been formed with the influence of many kind of languages. For these reasons, we can infer the reason why English prospered. It can be said that since English has affected by various European languages and there are lot of loanwords from them, people especially in Europe can easily learn English by finding similarities between their own languages and English.

Secondly, we need to know the history of the U.K to understand how English has spread throughout the world. As you know, the U.K has been a great and strong country in the history. From the early modern period to the period of imperialism when many countries tried to make their national power developed and invade other countries, the U.K defeated many countries and invaded there. Then, they colonized many countries such as the U.S, Australia, New Zealand and India that many people can speak English as their mother tongue today. Particularly, the U.S also became large country in the world and they have had influences on many countries. Thus, English spread dramatically and not only such colonized countries but also many other countries speak English and make it the official language due to the strong influence of the U.K. According to the website of MEXT which is based on the statistical data of *Databook of the World* [Translated from Japanese.] published in 2005, 54 countries make English the official language or the semi-official language. We can easily know how the U.K strongly affected on languages all over the world by seeing statistics. For these reasons, we can infer that English has spread throughout the world because the U.K was so strong country that they won many wars and colonized countries, which contributed to their strong influence. Therefore, it can be said that understanding the history is necessary for us to know the causes of English prosperity.

Thirdly, lingual characteristics should be discussed to reveal why English is learned by a lot of people all over the world. Why do many people learn English as second language? Why isn't Chinese language with the largest number of native speakers learned? There are some specific reasons why people learn English rather than any other languages. As mentioned before, in the first place, there are quite a lot of English-speaking countries and native speakers. Thus, needless to say, if we can use English, we will be able to have accesses to a lot of information and can communicate with many people. That means person who can use English can get a lot of benefits since it is already worldwide language and there are overflowing English information. In addition, it is relatively easy for learners to acquire English since its letters and grammar are understandable. As everyone knows, English has only 26 letters called

alphabet and its pronunciation is also relatively easy comparing with other languages. Also, alphabet is applied to other languages in Europe. In contrast to English, Chinese are very difficult to acquire. Although Chinese has the largest population of native speakers in the world, its letters and pronunciation are very difficult. The number of Chinese letters is said to be more than 10 thousand. People definitely have difficulty memorizing tens of thousands of letters. In addition, people also have difficulty pronouncing them because they have some subtle tones. Moreover, regarding its grammar, it is easy for us to learn. It doesn't have complex elements such as grammatical gender and declension which other European languages like Germany and French have. For these reasons, it can be said that English has been studied globally and prospered due to its large number of speakers and easiness of acquiring it.

Lastly, we have to discuss whether English will continue to prosper or not. To come to the point, we can say that it will. The reason is very easy. As we saw above, now, English is one of the most important language in the world since there are already lot of English speakers in the world. As globalization expand more, to contact to people from abroad, English will become more and more essential means of communication. Additionally, since science technologies have been developing, we might be able to obtain more easy way to study English such as highly accurate translator. Many people already consider English as the official language in the world and the world where it is natural for everyone to speak English may come. In this rapidly globalizing world, if we cannot use English, we unfortunately won't keep up with the world and be disadvantageous. That's why English will continue to prosper, and we absolutely have to study English in case we are unable to follow the world.

In summary, English prospered owing to some reasons such as its historical causes, characteristic causes and so forth. English was originally from German language which became Old English. English has not only had influence on other languages, but also been influenced by many other languages such as Old Nordic and French. Some vocabularies were brought from such languages, which may contribute to easiness of acquiring English particularly for European people. We can also know the causes of English prosperity by understanding the history of the U.K. They were so strong that they won many wars and colonized many countries. Some countries that were colonized by them are now English-speaking countries. Thanks to the influential power of the U.K, English has spread all over the world. Characteristics are also important. Since English is worldwide language, we can get benefits if we can use English. In addition, it is relatively easy for learners to acquire English because

compared with other languages, its letters, pronunciations, grammar are relatively understandable. Then, it can be said that English will continue to prosper in the world. To keep up with the rapidly globalizing world, it is necessary for us to use English in order to have accesses to many English information and to communicate with people all over the world. For these reasons, English has prospered very much and will continue to prosper, so we have to keep studying it. Do your best!



ベランダ側から室内
(右：鏡付クローゼット、中央：片開き戸、左：インターネット接続口)

アマゾンのイノベーション

立教大学 経営学部国際経営学科 三年

原田 春玲

小売業界の首位を走るアマゾンはいくつかのイノベーションを起こしている。しかし、何故、これほどの頻度でイノベーションを起こせるのだろうか？これは徹底した顧客志向によって、短期的なトレードオフ思考を克服しているからだと考えられる。このレポートではアマゾンによるイノベーションの変遷を見ることで、小売業界のイノベーションに必要な顧客思考について考察する。

まず、イノベーションの定義を確認する。イノベーションには大きく持続的イノベーションと破壊的イノベーションの二種類が存在する。破壊的イノベーションは新規市場の創造や新規価値の創出といった探索により生まれ、持続的イノベーションは事業の効率化や改善などの深化から生まれる。例えば、小売事業で商品の在庫の整理や配置をより効率化することは深化にあたるが、アマゾンの行った在庫という概念の削除が探索となる。

次に、アマゾンの例を見ていくが、アマゾンのイノベーションは大きく三つのフェーズに分かれている。第一のフェーズは、「書店からオンライン・スーパーストアへの変革」だ。そして、第二が「オンライン・プラットフォームへの変革」で、第三が「クラウド・コンピューティング会社への変革」だ。このフェーズを一つずつ時系列順に考察していく。

第一のフェーズはアマゾンの始まりであり、一番重要なイノベーションが行われたフェーズと言える。何故なら、このフェーズではアマゾンが小売業界にオンラインという市場を出現させたフェーズだからだ。このフェーズでアマゾンのCEOであるベゾスはオンラインの破壊的可能性にいち早く気づき、オンライン書店を創設した。そして、在庫を持たずして、膨大な選択肢を顧客に提供することが可能となった。これは、実店舗よりもはるかに広範な商品の提供につながった。さらに、ベゾスはこの時、物販でも受けるのではなく、顧客の購買決定を手伝うことで儲けるという哲学を持っていた。その考えから、レビューが生まれた。その後も音楽やDVD販売にも展開した。しかし、アマゾンも成功するだけではない。例えば、アマゾンはオークション業界に参入しようと、イーベイに喧嘩を売り、失敗をしてしまった。しかし、この失敗が後のプラットフォームの一部に使われ、生かされていた。ここから、アマゾンの戦略は短期的な収益性よりも、フリー・キャッシュフローや市場シェアを増進させる長期的な見解に立っていることがわかる。このフェーズでアマゾンは短期的な収益よりも、長期的な顧客志向をもとに、漸進的改善を続けたが、これは次の変革の準備として、新領域の探索につながったのだ。このようにして、アマゾンは書店からオンライン・スーパーストアへと変わった。

第二のフェーズでアマゾンは流通の改革を行い、オンライン・プラットフォームとなった。このフェーズでアマゾンは、自社だけでなく、他の小売業者にも自社のサービスを使えるようにしていた。

例えば、アマゾンにはトイザラスの在庫品を倉庫に保管し、出荷や配送手配を代行していた。そして、この手法によって、アマゾンは高度な電子商取引スキルを身につけ、手数料収入も受け取れるようになった。この第三者である他社を巻き込む手法によって、さらに多くの商品を扱えるようになった。そのような経緯から、アマゾンは物流の組織能力への投資を行なった。しかし、その中でアマゾンに一つの疑問が生まれた。それは物流がアマゾンにとって、コモディティかコアコンピタンスなのかという疑問だ。もしコモディティなのだとすれば、なぜそんなにも物流に投資する必要があるのか疑問だったのだ。何故なら、コモディティなのだとすれば、物流は第三者のベンダーが持つ技術を利用し、他のコアコンピタンスに投資することができるからだ。しかし、アマゾンは顧客志向の視点から、物流は自社の組織能力としなくては行けないと考え、物流改革に望んだ。そこから、アマゾンは配達を約束された時間に遂行するように意識し、顧客のロイヤリティを高めることができた。これがアマゾン・プライムの始まりだ。アマゾンはこのサービスで、毎年七十九ドルの支払いを設定したが、ロイヤリティの高さから多くの顧客が利用するようになった。初めは大損してしまい、ヘビーユーザーしか、このサービスを利用しないのではないかと予測された。しかし、アマゾン・プライムの会員としての恩恵が顧客をアマゾン依存症にさせることができた。つまり、徹底した顧客志向は短期的なコストを克服させ、顧客のロイヤリティを高める結果となった。物流という顧客に近い部門への投資にこそ、顧客志向の効果を期待できる。

第三のフェーズでアマゾンは新規事業の探索に力を入れた。このフェーズでは、アマゾンがオンライン小売業向けの技術プラットフォームになるために、必要な組織能力を養い、クラウド・コンピューティング会社となった。アマゾンは大きくなる組織に対応するために、分権化と独立した意思決定を推進した。何故なら、問題に一番近い立場が最も解決に適しているとベゾスが感じていたからだ。例えば、具体的な施策として各自がソフトウェア開発者や事業担当、設計スタッフを抱える「ツープザ・ツークーム」という少人数のチームを作った。そして、二〇〇六年以降には合計九回もの新規事業の探索に乗り出した。例えば、動画配信を行うアマゾン・インスタント・ビデオやアマゾンスマートフォンなどだ。確かに、この数々のイノベーションが行われる中で内部での批判もあった。しかし、アマゾンは新しい市場や商品を絶え間なく追求することで、成熟事業で抜き出た存在となり、動画配信などの探索を進めることができた。これはアマゾンが顧客志向を大切にし、ニーズのある商品への追求を怠らなかつたためにできたことだ。つまり、短期的には探索事業は戦略の軸から外れているように見えていても、長期的な視野で見ると、顧客志向という一つの軸に収束していたのだ。

これまで三つのフェーズに分けて、アマゾンのイノベーションを見てきたが、この変遷からアマゾンのイノベーションを支えている要素は徹底した顧客志向によるものではないかと考えられる。何故なら、アマゾンがこれまで行なってきたイノベーションは収益になるかというよりも、顧客のためになるかどうかという判断基準によ

ってなされてきたからだ。例えば、どのフェーズにもコストの発生する失敗があったが、その失敗を最終的に顧客のためのサービスに転換していた。おそらく収益を中心に考えていた企業であれば、数々のイノベーションに伴うコストに怯んでしまって失敗のまま終わってしまったであろう。つまり、一貫性のある戦略の中ではイノベーションを求めることに発生するトレードオフ思考を克服することができると考えられる。

最後に、アマゾンには顧客志向に重点を置いていたが、この手法は徹底したデジタルイノベーションによる顧客データが可能にしたことであって、小売事業の他社には難しいと考えられる。何故なら、顧客志向に十分なデータを持たずに偏重してしまうと、明らかなニーズの情報しか目に見えず、新しい価値を生み出せなくなるからだ。一方、アマゾンには他社との協働で得た莫大なデータがあるため、目に見えないニーズを読み取り、新たな価値を想像できる。つまり、デジタルイノベーションと顧客志向の組み合わせがアマゾンのイノベーションを起こした鍵なのだ。

引用文献

チャールズ・A・オリリー、マイケル・L・タッシュマン。(二)

〇二〇) 両利きの経営、東洋経済新報社。

学舎から電車に乗らずに食べにける二郎系ラーメン

東京工業大学 情報理工学院情報工学科 二年

吉谷 碧海

僕は東京に来て二郎ラーメンにハマりました。二郎系ラーメンは山口県にはありませんが、学舎から電車をつかわずにいける二郎系ラーメン屋がたくさんあるのでおすすめ度と共に紹介します。

まずは大森駅の近くに有る最近オープンした「らーめん バリ男」です。このラーメンは、見た目は二郎に似ていましたが、スープが二郎のそれとは少し違いました。背脂や薬味が多く入っていて個性強目なラーメンでした。チャーシューは薄いものが三枚は入っていました。二郎系と少し離れているということもあり、おすすめ度は一です。

次に紹介するラーメンは梅屋敷駅の近くにある「連」というお店です。ここはなんととっても安いです。麺は普通の二郎系よりも少なめですが六五〇と安価でラーメンを食べることができます。また一〇〇円でほぐしチャーシューをトッピングすることができます。麺、チャーシュー、もやしは普通ですが、スープが醤油強めであまり二郎という感じではありませんでした。スープの味が二郎と離れているのでおすすめ度は二です。次から紹介するものは全て二郎系って感じのものです。

次に紹介するのは平和島駅の近くにある「ラーメン髭」です。ここは今回紹介する中で最も二郎ラーメンに近いラーメンです。麺の

太さはかなり細く、噛みごたえがとてもありません。野菜にはもやしの中に少しキャベツが混ざっていて脂をよく絡めて食べるととても美味しいです。チャーシューも肉厚でほろほろなものがゴロゴロと入っており味が染み込んでいて麺、野菜とよく合います。ただ、お店の人のお客さんに対する態度がとて悪いのと、店に清潔感が無いことからあまり印象は良くありませんでした。ラーメンが食べられれば良いという人向けなのでおすすめ度は二です。

次に紹介するのは平和島駅や蒲田駅の近くに二店舗ある「ラーメン大」です。このラーメンは写真に騙されて野菜をマシにするとかかなり多くのもやしが入っています。硬めわしわし系の中太麺でまたニンニクも容赦なく入れてきます。硬めわしわし系の中太麺で食べ応えがあります。チャーシューが薄いものが三枚入っています。自分の好みですが、チャーシューは分厚くて食べ応えのあるものが必要です。しかし結構リーズナブルな値段で満腹感を味わうことができるのでおすすめ度は三です。

次に紹介するのは大森駅近くにある「ラーメンタロー」です。このラーメンもかなりリーズナブルです。しかし、ラーメン大と同じようにチャーシューは追加でトッピングをしなければ物足りなさがあります。またパサパサしていて、味が染み込んでないのでスープに浸して食べると良いと思います。スープは非乳化系です。またこの無料トッピングで削り節というのがありこれを加えると魚介の風味が増して一段と美味しくなります。おすすめ度は三です。

次に紹介するのは蒲田駅近くにある「ラーメン宮郎」です。ここ

で初めてスープが乳化系の二郎系ラーメンとなります。この値段は少し高めですが、脂身の多い分厚いチャーシューがとても魅力的です。シャキシャキとした野菜、もちもちとした麺、コクのあるスープの組み合わせがとても良いです。最近では並ばずに入れることが多く店員さんも明るいので行きやすいです。おすすめ度は四です。

次に紹介するのは蓮沼駅の近くにある「ちばから」です。ちばからは元々渋谷にありましたが、閉店して新しく蒲田に最近オープンしました。ここは麺の硬さ、脂の多さなど好みによって先に変更できます。また、他とは違い、トッピングにネギがあり非乳化スープとよく合います。裏トッピングでラー油がありラーメンに少し辛さを与えてくれます。またチャーシューもかなり分厚くボリュームがあります。しかし値段が少し高いのでおすすめ度は四です。

次に紹介するのは大森駅近くにある「ラーメン豚山」です。このラーメンもスープは非乳化。ここでは麺一二五gの少量な人向けのミニラーメンがあります。チャーシューがとてホロホロで柔らかく味が染み込んでいます。麺は太くコクのあるスープが絡んでいてとても美味しいです。無料トッピングのコールについての説明なども詳しく書かれていて二郎初心者にとて優しい店だと思えます。おすすめ度は五です。

次に紹介するのは僕が一番いく蒲田駅の近くにある「鷹の目」です。ここは一番小さいラーメンで二〇〇gあり値段が七五〇円と他に比べてとても安いです。また一〇〇円でほぐし豚やチャーシューも一枚トッピングすることができます。ほぐし豚はとてボリューム

ムがあるのでおすすめ度です。豚トッピングで野菜を増すと食べ切れなくなる可能性があるので野菜は増さない方がいいです。また辛揚げというトッピングがありますが、辛くはなく食感がとても良いです。スープは非乳化ですが、とてもこくがあり野菜、麺、豚と絡みよりコクを増してくれます。また夏に出る冷やし中華もとても美味しいです。おすすめ度は五です。

以上が岩陽学舎から電車を使わずにいける二郎系ラーメン屋とそのおすすめ度でした。番外編で僕が東京でぜひ食べて欲しい二郎系ラーメンがあるので紹介します。秋葉原駅から徒歩五分くらいにある「ラーメン忍者」です。このラーメン屋の忍者ラーメンというラーメンをぜひ食べてもらいたいです。その理由は豚のポリウムが桁違いだからです。ラーメンよりむしろ豚メイン。煮卵も入っていて一日でこれさえ食べておけば何もいらなくらいにポリウムと迫力がすごいです。麺半分などでもできるのでぜひ行ってみてください。僕は東京に来てラーメンにどハマリして一年で体重が約十キロ増えました。二日に一回のペースで食べていたのでそれはもちろん見た目もかなり丸くなりました。これからはラーメンを控えてダイエットをしていきたいと思いました。

夏休みの思い出

目白大学 人間学部人間福祉学科 一年

大塚 はな

私の夏休みの思い出はたくさんアニメを見たことです。私が夏休みに見たアニメを紹介しようと思います。

まず、「ホリミヤ」というアニメです。このアニメはただ、主人公のビジュが好みだったので見ました。しかし見続けていくと「もしかして主人公と、このヒロインの女、くつつくのか？」と思わせるような場面がいくつもあり、結局主人公とヒロインが両思いになり付き合い始めたのが嫌すぎて途中離脱しました。いつか心の整理がついたら最終話までみようと思います。

二つ目は「僕のヒーローアカデミア」というアニメです。有名な作品なので知っている人も多いと思います。あらすじはこんな感じです。【かつて誰もが空想し憧れた“ヒーロー”。それが現実となった世界で、ひとりの少年・緑谷出久（みどりや いずく／通称デク）もヒーローになることを目標に、名立たるヒーローを多く輩出する雄英高校への入学を目指していた。しかし、デクは総人口の二割にあたる、何の特異体質も持たない“無個性”な落ちこぼれだった…。そんな中、デクは自身が憧れてやまないNo.1ヒーローのオールマイトと出会い、それを機に運命を大きく変えていくことになる。友、師匠、ライバル、そして敵（ヴィラン）…。さまざまな人物、多くの試練と向き合いながら、デクは最高のヒーローになるべく成長し

ていく。】

夏休みには映画も見に行きました。九月は誕生日だったので特別に4DXとMX4Dで二回も見に行きました。4DXとMX4Dの違いは特にありませんでした。どちらも座席がすぐ揺れるし、雨のシーンと合わせて水がかかってくる。あえて違いを挙げるとしたら、MX4Dの方が風が強く吹きます。せっかくセットした前髪が崩れるので注意してください。席が揺れすぎてポップコーンが落ちてしまうのでは？と予想していたのでポップコーンは買わなかったのですが周りの人たちはふつうにポップコーンを買っていたし、こぼしていなかったのも私も買えばよかったなあと思いました。推しは爆豪と轟です。夏休みに秋葉原に行って二人のキーホルダーをゲットしたというのに一週間で轟を落としてしまつて本当にショックです。帰ってきてくれよな、轟、、、。また、気が向いたら秋葉原に行つて買いに行こうと思います。

次に、「Free!」というアニメです。このアニメはプールを舞台に躍動する男子高校生たちの水泳と青春と絆の物語です。制作が京都アニメーションなのでとても作画が綺麗です。いつも電車の中や学校に行く道でキャラソンを聴いています。憂鬱な気分の時も気分が晴れる気がします。この作品も映画が公開されたので見にいきたいなあと思います。

そして今見始めたアニメが「HUNTER×HUNTER」です。ゴンとキルアが「念能力」を習得しヒソカと戦ったところまで見ました。今はクラブिकाとセンリツが出会ったシーンです。とても面白いです。で

もクラブिकाとレオリオの名前がどうしても覚えられないです。ちなみにキルアが推しです。強くてかつこよくて可愛いので。原作の方はだいぶ長い間、休載しているので連載再開するまでにはアニメを全部見ておきたいなあと思います。

更に、中学生の時に読んでいた「進撃の巨人」という作品もアニメで再履修しています。中学生の時にユミルが巨人になったあたりから内容が理解できなくなつてしまつて離脱しました。進撃の巨人は容赦なく次々と人が死んでいくので見ていてキツイのですが色々なところに伏線がはつてあつて面白いなあと思います。一期の話でアルミンが自分を殴つていじめてくる人たちに言う「僕が言ったことを正しいと認めているから、言い返せなくて殴ることしかできないんだろ」というセリフが好きです。同じくアルミンの「何も捨てることができない人には、何も変えることはできないだろう」というセリフも好きです。なんか、かつこいいです。中学生の時は王道にリヴァイが好きだったのでアルミンもかつこいいなと思うようになりました。

そもそも、私がアニメにハマつたのは中学一年生の頃です。友達におすすめだと言われて貸してもらつた「弱虫ペダル」のDVDを見たことが始まりです。当時は、「アニメとか興味ないんだよねー。話を合わせるために見てやるかー。」という考えでした。しかしDVDを見るととても面白くて人生初めての推しもできていました。そこから、ハイキュー、東京喰種とハマつていきました。たくさんアニメを見て推しが増えれば増えるほど日々の生活が楽しくなりま

す。夏休み、暇な時は十六時にはお風呂に入り終わって布団にぐるまっつて寝ながらアニメを見ていました。「これが、幸せの具現化か!!!!!!」と思いました。きつとそうだと思います。

そして私には大きな夢があります。それは、とても大きくて画質が良くて音質も良いテレビを買うことです。今はテレビがなくてパソコンでアニメを見ているですが大人になったら家電量販店にある中で一番大きなテレビを購入し、アニメをみまくりたいです。この夢は絶対に叶えたいと思います。

舎誌ってこんな内容で大丈夫なのでしょうか？締め切り当日に焦って書き始めたせいで自分でも何が言いたいのかわからない内容になってしまいました。でも自分が好きなことについてだったので無事書き終わりました！しかし、このように課題などを当日ギリギリまでためる癖があるので秋学期は治したいです。



ユニットバス 浴室換気乾燥機・温水洗浄便座付き

ロジステイクスクールについて

青山学院大学 総合文化政策学部 一年

高石 光輝

私がこれを書いているのは九月も終わりに差し掛かり、もうすぐ十月に入ろうかという頃なので、今から一ヶ月半ほど前となる八月八日に東京オリンピックが、そして約三週間前の九月五日にはパリオリンピックが、開会式、閉会式でのごたごたや、新型コロナウイルスのパンデミックによる無観客での開催、といった様々な障害を乗り越え、無事に閉幕しました。今大会では、五十七年ぶりの自国開催ということに加え、日本人選手たちのメダルラッシュということもあり、例年以上に盛り上がっていたのではないかと思います。ですが、今回の大会を開催するにあたって、頑張っていたのは選手たちではだけありません。大会組織委員会の職員をはじめ、多くのボランティアや協力企業の社員たちなど、多くの人々の手によって、今大会は無事に開催できたのです。今回私は、その中でも特に「ロジステイクスクール」と呼ばれる方々について書こうと思います。「ロジステイクス」とは、つまり物流のことです。今大会では、国立競技場をはじめとし、多くの施設が競技に使用されたため、それぞれの施設に必要な物資を届け、また使い終わった後には回収する、という作業がとても重要になってきます。今大会では「ヤマトホールディングス」という企業が今大会のロジステイクスパートナーとしてこの役割を担っていました。ここで少し「ヤマトホールディングス」

グス」という企業について簡単に説明しておきます。皆さんも「クロナコヤマトの宅急便」という言葉はよく耳にしていると同時に、実際に利用していることだと思えます。この「宅急便」を運営しているのが「ヤマト運輸」という企業で、その親会社となっているのが「ヤマトホールディングス」という企業です。話が少しそれてしまいましたね。本筋に戻します。今大会のために、全国各地の支店やグループ企業からたくさんの方々が集められ、作業に従事しています。私は何度か彼らとともに会場の撤収作業を行う機会がありました。私は正直に言ってしまうとこの作業は会場内から備品を集める、そしてそれをトラックに載せて搬出する、といったとても地味な単純作業である上に、仕事量が多いので多くの日数を割かなければならない大変なものです。しかし彼らは手際よく迅速に、それについて丁寧に仕事を片付けていきます。その結果、作業が予定していた時間よりもかなり早く終わる、ということが度々ありました。ちなみに、彼らは表彰台の設置をする機会もあつたようで、「さすがの手際よさ」とネットニュースに取り上げられたりしていました。彼らの仕事は、決して表に取り上げられることはありません。今回のようにネットニュースに取り上げられたことは、稀有な例だと言えるでしょう。表に取り上げられることがないということは、言い換えればサボっても誰にもばれない、ということであると同時に、誰からも称賛されることはない、ということでもあります。誰も見ていないところでサボる、手を抜くという経験は、皆さんにもあると思います。もちろん私にも思い当たる節がいくつもあります。ま

た、多かれ少なかれ誰かに評価されたい、認めてもらいたい、といういわゆる「承認欲求」は誰しも持っているものだと思います。しかし、私は彼らとともに仕事をし、彼らの仕事を間近で見ましたが、そのようなことは一度もありませんでした。たくさんいる作業員のうち一人も、です。これは驚異的なことだと思います。なぜなら、必ず全体のうち何割かはサボり始めるのが普通だからです。皆さんもご存じだと思いますが、「働きの法則」というものがあります。これは、全体のうち「二割はよく働き、六割は普通に働き、残りの二割は怠ける」というものです。この数値をとって、「二六一の法則」とも呼ばれています。ここで興味深いのは、よく働くアリだけを残しても、逆に働かないアリだけを残しても、必ず二六一に分かれてしまう、という点です。つまり、結局のところ必ず一定数はサボる人々が出てきてしまう、ということなのです。

しかし、前述の通りロジスティクススクールの皆さんは、決してサボることはありませんでした。どうすればこんなことが可能になるのでしょうか。決して、「仕事だから」「給料がもらえるから」という理由だけではないはずです。おそらく、彼らは強い使命感を持っているからだと思えます。「自分たちがオリンピック・パラリンピックを支えている」という強い使命感・誇りを一人一人が持って作業に当たっているからこそ、こんなことが可能になっているのだと思います。

ここまではオリンピック・パラリンピックといった一生に一度あるかないかというほどの特別な機会についての話でしたが、このこ

とは日常生活でも当てはめることができると思います。どのような場面にも必ず彼らのような「裏方」というものは存在しています。例えば、日常的に使う宅配便やフードデリバリーも、運んでくれる人々がいるから成り立っています。また、そこら中にあるコンビニや自動販売機。それらも、ただそこにあるだけでは利用することはできません。ただの邪魔な物体です。私たちが常に利用できるのは、その運営に携わるたくさんの人々がいるからこそなのです。私たちが、彼らの存在を目にすることはあっても、意識することは少ないです。いや、ほぼないと言ってもいいかもしれません。ただ、彼らの存在がなくては、私たちは普通に日常生活を送ることは決まらないうのです。身の回りにあふれている便利なサービス、施設はすべてこのような使命感を持った「裏方」という存在に支えられているということを決して忘れてはいけません。そして、感謝することも忘れないようにしましょう。ひよつとすると、私たちも「裏方」に回ることがあるかもしれません。やはり、そんな時に、「ありがとう」と言ってもらえるのと言ってもらえないのでは、大きな差があると思いませんか？

コロナ渦の今では、このようなサービスを利用する機会が以前よりも増えているように感じます。そんな今だからこそ、一つ一つに感謝することを心掛けてみてはいかがでしょう。

東京、コロナ、十八歳の自分

早稲田大学 文学部 一年

高部 吉之介

満開の桜を待たずに地元を離れ、東京ではじめて見た桜は連日の雨で早くも散り始めていた。暖かくなり始めた三月の末に東京にやって来てもう六ヶ月も経ってしまった。五月に改装後の部屋に引っ越すことになっていたので、初めはほとんど全くと言ってよいほど家具を揃えておらず、必要最低限の——今思い返すと必要最低限とも言えないような気がするが——日用品だけ持ってこの岩陽学舎に入舎した。そういうわけで、初めての一人暮らしの上に炊飯器や電子レンジさえ無かったため、毎日の食事を作ってオンライン授業に参加することだけでも精一杯だった。授業の教材準備や、サークルの新歓などの予定もあり、初めの一ヶ月は特に精神的に忙しく、あつという間に過ぎていった。五月に入り、新しい部屋に移ったというところで、いくつか最低限の——これを本当の意味で最低限と云うべきだろう——家具を揃えはじめ、いくらか生活に慣れていった。そのまま七月に入って夏休みには地元へ帰省して、東京へ帰って来た。そのまま夏休みは終わり、今に至る。先日、学舎の友人の引っ越しを手伝った時にも感じたが、やっぱりまだ自分の部屋には家具が少ない。Amazonなどで適当に買ったものだが、「家具は頻繁に買い換えるものではないので慎重に選びたい」と理由をつけて購入には至っていない。こういうところで変にこだわりを持つあたり

に自分の性格を感じる。そうこうしているうちに、順調にいけば四年で終わる大学生活の八分の一が終わった。

大学はというと、秋学期に入っても依然オンライン授業がほとんどで、正直大学に入学した実感はほとんどない。授業で学校に行くのは、週に一回、良くて二回といったあたりだ。どうやら、自分の学部が他の学部比べて対面授業の再開に消極的なようで、同じ大学でも他の学部ではそこまで少なくはないらしい。正直オンライン授業は楽ではあるが、つまらない上に、授業に対する意欲があまり湧かない。それでも、形として大学に入った感想としては、今のところは大学で学ぶ勉強よりも大学で出会う人たちの方に意味を感じている。もともと自分が早稲田を第一志望として選んだ理由の一つに、自分と趣味が似ている人や、それとは逆に全く考え方が違う人、自分とは異なる世界で生きている人などのたくさんの人がいるのではないかと思ったからである。現状、ほとんどの授業はオンラインで行われているので、大学の人との繋がりがあるのはサークルにおいてなのだが、そこでは、ドストエフスキーが大好きな人、楽器がとて上手な人、ビートルズのオタク、ファッションが好きな人、かぼちゃが好きな人、など多種多様な趣味嗜好を持つ人たちがいて、その点ではこの大学を選んだ意味はあったように思う。彼／彼女らの影響で自分の世界を広げ、高めることができると思うからだ。高校時代に、自分は負けず嫌いなかもしれないと思うことがあった。小中である程度勉強ができたので、ちよつと頑張つて地元では賢かった徳山高校に進学した。しかし、地元で勉強ができるや

つが集まっているわけだから、入学後の最初のテストで自分は全体の下の上といったところだった。当時は、なかなか凹んだのを覚えていた。小中では一つのアイデンティティでもあったものが高校ではなくなってしまったわけだから。ここからが重要なのだが、そこで自分は周りになんとか追いつけるように勉強した。結果、一年の秋頃には上の下くらいまでには成績を伸ばすことができた。ここで自分が頑張ったのは、負けず嫌いということと、周りが優秀だったから、という二つの要因があったのだと思う。この理屈で言えば、大学には自分より優秀な人——それも高校までとは違って、学業だけではなく様々なことで——がごまんといるわけで、その人たちに追いつこうとすることで、自分を磨くことができるはずだ。そういうことで、大学もオンラインに固執するのではなく、学生の交流を促す形の運営に取り組んでほしいと思っている。それが今は難しいこともわかるが。

このコロナの状況を誰かのせいにすることはできないが、自分たちだけこんなに活動を制限されるのは納得がいかないという思いがある。母校のホームページには、去年の自分たちの年では中止になった文化祭や、体育祭が行われている様子が載せられており、どうにもやるせない気持ちになる。大人は「コロナが終わるまでの我慢です」とか「コロナが終わった後に——」とか呼びかけている。確かに、治療薬もできていない未知のウイルスであるので、人との接触を避けて、リスクを減らすことが最善の策だとわかる。それでも、コロナで無くなった時間が返ってくるわけではないはずだ。自分に

とつての『高三の文化祭』はなくなってしまう、永遠に返ってくるわけでもない。自分の人生は限られたものであるのに、どうしてその時間を簡単に「我慢」といつて捨て去ることができるのだろうか。

二〇二〇年九月十一日の山口県のコロナ感染者は一人、二〇二一年九月十一日は二十五人。これは結果論だが、コロナ感染状況だけを鑑みると、今年の文化祭があつたのならば去年の我々の文化祭も開催できたはずだ。勿論、ウイルスに対する理解や、世間の状況など去年と今年は異なっているため、去年の中止という判断を責めることはできないが、それでも自分の高三の思い出にはぼっかり穴が空いている。それを埋めることはもう誰にもできない。自分の人生は毎日が一度しかやつてこない、これを書いてる十八歳の自分の十月十八日にも二度目はないのだ。

これからコロナがどうなつていくのか、普通の大学生活とやらを味わうことはできるのか、この東京でどんな人たちと出会うのか。不安も希望も抱えたままだが、精一杯後悔の無いように自分の人生を歩いていきたい。



集会室入口よりパソコンデスク(左)

六カ月間の東京生活とコロナ

日本大学 理工学部 一年
谷上 龍平

東京に来てもう半年がたちました。この度は岩陽学舎の伝統行事である舎誌を初めて書くことになりました。さて、記念すべき一回目のテーマは「六カ月間の東京生活とコロナ」ということで私の大学生活や東京での暮らしについて綴っていこうと思います。私の東京での生活で切っても切れない関係のものは新型コロナウイルスです。私が上京した四月頃には、すでにマスクが必須で昔テレビで見ていた東京の姿はそこにはありませんでした。

大学の授業も感染者が落ち着いていた四月の中旬までは大学の校舎での対面授業がありました。が緊急事態宣言が発令されると、それ以降は実技や実験以外の座学はすべてオンライン授業となりました。私は実技や実験、製図などの登校が可能な授業をいくつかとっていたこともあり、週に一度のペースで大学に通うことができました。

ここで私が前期の実技の授業で体験したことの中から特に印象に残ったものをいくつか紹介しようと思います。まずは、工作実習で扱った旋盤について、授業では代表的な工作機械である旋盤を用いて金属の棒から手のひらサイズのネジを作る実習を行いました。ノギスやマイクロメータを用いて精巧に作る事が目標で旋盤の使い方もしっかり教わりました。初めて自分で加工した工業製品のネジは記念として持ち帰り、現在は玄関に保管してあります。次は鋳造

について、授業では比較的、融点が高いアルミニウムを砂で作った型に流し込みプロペラを作りました。融点が高いといっても八〇〇度以上あり、とても危険な作業でした。るつぼ炉から湯（液体状の金属）を取り出すときは絶対にアルミをこぼさないように動作確認を何度も行っただけで実施しました。今までで一番、緊張感のある実習でした。以上のように私の大学では実際の工場で行われている工作機械に触れながら機械の仕組みや操作方法などを一年生から学ぶことができます。後期からは車のエンジンについての講義もあるので個人的に楽しみます。

一人暮らしを始めてから私は自炊にも挑戦しています。実家を出る前は料理の手伝いもろくにすることがなかったのですが、なぜか自分はある程度、料理ができると思っています。この自信はどこから来ていたのか今になって考えてみると、幼いころ入隊していたボーイスカウトで学んだリングの皮むきやキャンプでのカレー作りなどで体得した包丁さばきから来ていたのだろうと推測しています。幸い学舎のキッチンには設備が整っており、スペースも十分広く、自炊が可能です。東京は物価が高いので毎回外食というわけにはいきません。また、私の実家が農家ということもあり、ジャガイモ、ニンジン、玉ねぎは家から届けてもらうことが可能です。おかげさまで、カレーを作る腕はめきめき上達しました。また、カレー繋がりでもナンも作れます。まだ、挑戦していませんがナンが作れるのでナンも行けるのではないかと思っています。まだ、魚には手を出していませんがいずれは魚料理も大学卒業までに数品マスターしたいと

考えております。

コロナ禍での大学生活となりましたが前期は楽しく終わらせることができました。夏休みに入ってすぐの七月の終わりから八月にかけて私を悩ませたのはワクチン接種の問題です。

東京では打てそうな気配がなかったことや私がアレルギー体質で副反応がひどくなることが予想されたことも重なり、ワクチン接種後は安心して過ごせるように夏休みの間は実家に帰ることにしました。今年の夏は全国的に信じられないほど雨の日が続き皆さんも外に出る機会が少なかったのではないのでしょうか。言わば天然の強制自粛期間といったところでしょうか。

さて、高齢者から順次ワクチン接種をしてきましたが七月頃から若者にもワクチンが回ってきたので打ち始める人も周りに出てきました。ワクチンの接種率について私が舎誌を書いている時点ではワクチン接種を完了している人は全人口の五十八％に到達しています。私はすでに二回の接種を終わらせていますがワクチンが作られたばかりの頃、私はワクチン接種に対して反対の立場をとっていました。理由はいくつもあったのですが一つ上げるとアイ・アム・レジエントというSF映画を見たことがあったということです。この映画では、癌の特効薬として開発された新薬を投与された人々が薬の変異によって化け物へ変貌してしまい、たった三年で人類が滅び、生き残った男の物語です。私は短期間で作られた新型コロナウイルス用のワクチンがこの映画の新薬を連想させてしまい、また、ワクチンについての情報が少ない状況では体に入れるのをためらっています。

た。私はワクチンについての情報が始めて自分が納得したうえで接種をしましたがワクチンを接種しないという選択肢を選んだ人たちのことも尊重すべきだと考えています。ワクチン差別という言葉もちんほら聞こえ始めている今日、差別の一つとして世の中に広まることが無いよう強く願っています。

終わりに、初めての舎誌でしたが無事に書き終えることができませんでした。私は文章を書くのが苦手です。子供っぽい文になりがちですが舎生の先輩方のような文章に近づけるよう場数を踏んでいきたいと思っています。ありがとうございます。

仏教のすすめ

駒澤大学 仏教学部 一年

田弘 一真

明治以来、日本の人々はそれ以前には全く無かった新しく、斬新な西洋の文化に魅せられ、それを取り入れることに輝かしい未来を見出してきた。結果として、西洋の近代文化は、私たちの生活に、それまでとは比較にならない程の豊かさをもたらした。しかし現在、二〇二一年。果たして我々は幸せだろうか。物質的には豊かになった。歴史を俯瞰してみても、西洋文化のもつパワーは私たちに劇的

な発展をもたらした。しかし、精神的にはどうだろうか。二〇二〇年、年間を通してこの国では二万八十一人に人が自殺をしていると、警視庁のホームページにのっている。心はまだ豊かになれるのではないか。そしてそのためには、どうすればいいのだろうか。私は、心の救いへの手がかりを、我々が忘れてしまった、仏教にあると考える。西洋文化を取り入れることに及々としている間に、無用なものというイメージがつけられ、有難みが忘れられてしまった仏教を見つめれば、心の救いを得るための方法はわかるのではないか。私はここで、仏教の一つとして、密教、そして曼荼羅について書こうと思う。

密教と聞いて、何のことかピンとくる人は少ないだろう。それは、長い年月で進化を続け、少しずつ中身や名前を変化させ続けてきた仏教の、ある時期からの呼び名だ。七世紀から八世紀のあたりで成立したとされる。生まれた場所は、インド。現在では、日本や中国、チベットなどで主に信仰されており、インドではそれほど盛んに活動が行われていない。

次は、密教の内容、どのようなことを教えているのかについて説明していこう。そのために、まず密教成立時の、インドにおける仏教の置かれていた状況を説明する。当時、インドでは仏教とはある宗教の台頭により勢力が弱まり、存亡の危機に瀕していた。ヒンドゥー教である。分かりやすい内容であったため、仏教よりも広く民衆に受け入れられていた。そういう状況にあつて、仏教内ではそれまでより、多くの人々を悟りへの境地に導こうとする教えが大きく

なつていった。そんな状況で密教は人々に真理を体得させるために、画期的な方法をとった。瞑想などの厳しい修行ができる人は多くない。なので、より多くの衆生を救うために、効率的に、洗練された修行や、修行を助けるための道具が開発されていった。その道具のうち、最も代表的なものが、曼荼羅である。曼荼羅とは、絵画の形をした修行道具だ。密教以前の修行には主に経が使われていた。ブツダが、悟りの内容は難解にして曖昧なものであるため、言葉では伝えられないと言ったとされているように、経は長く難解だった。それでは書かれている教義は、知識層や出家者などといった、限られた人々しか救えない。その問題に立ち向かう術としての曼荼羅絵画なのだ。また、絵画で教えを伝えることのメリットは他にもある。仏教がほかの国に広まってゆく過程で、必ず当たる壁、経の翻訳、言語の壁だ。ただ二つの言語を習得すればいいという話ではない。先述したように経の内容は難解だ。それに曖昧であり、多言語には言葉として存在さえしていない概念も登場している。この問題に向き合つてゆく過程で、様々な偉人やドラマが生まれ、それは長い仏教史の中に今も燦然と輝いているわけだが、それらは往々にして過酷なものであり、命の危険がついて回ることも少なくなかった。そんな大きな問題にも、絵画である曼荼羅では有効に対処できる。その美しさは、複雑で多様な形態や色彩からなるものだが、その美しさの中に、何とも言えない秩序を感じせる。見るものに、密教の説く世界観や真理を感覚に訴えて伝えるのだ。そのほかにも、密教は護摩といわれる儀式を用いて教義を伝えたりもした。そんなより多

くの人々に寄り添おうとする意識の強い密教であるが、教えの内容もまたふさわしい形に変化していった。まず、ヒンドゥー教の神を吸収した。すでに人々に広く知られていた神々を密教の世界に登場させることで、人々に受け入れやすくなった。そして、密教の成立以前にあつた、禁欲的な教えを廃する流れが、密教によつて完成した欲望を頭ごなしに否定せず、悟りへの原動力となる大切なものとして一部肯定したのだ。その証拠に、密教の世界観を伝える曼荼羅には、性愛などの欲望を司る菩薩が登場する。そして、それまでの仏教、密教に対して顕教と呼ばれる仏教は私たちの暮らす現世に対して、どこか否定的な立場をとっていた。悟りを得るには膨大な時間がかかるため、現世に生きているうちでは、真理は分からないとされているからだ。しかし、密教は曼荼羅に代表されるように、効率的かつ効果的な修行方法を提案しているので、一生のうちに悟りを得ることが可能だと言っている。なので、密教は現世を肯定しているのだ。そして、その先のたどり着くべき境地をも提案している。それは、慈悲の実践だ。曼荼羅に表される密教世界において、世界は大日如来とよばれる仏の光につつまれているとされている。これは現世の肯定という密教の要素にもつながっている。そして、世界のあらゆるものに大日如来の光が降り注いでいるということは、この世界のすべては仏の境地に、悟り、たどり着けるということを表している。これが慈悲の実践という密教の最終的な目的の根拠となる。ここでいう世界のすべてとは、醜い悪人や、自然をも含まれる。それらすべては仏の慈悲の性質を根底に持っているのだ、悪事にも

天災にも、一見取るに足らない虫けらでも、根底には良いものが隠れている。すべてのものは、平等に尊重されるべきだということだ。そして、仏の加護を受けている我々はほかのものに対し、慈悲や思いやりを持って接することができるということだ。そして、人は真理をもし体得しても、はじめのうちは直ぐに忘れてしまう。だが、少しずつ、その時間を伸ばしていったら、その時間のうちに人に優しくしようというものが密教の教えだ。密教において、悟りを得るのと自体は、そこまで大きな目標ではない。本当に大切なことは、悟りを得て、慈悲を实践することだ。

では、慈悲を实践するための、悟りの中身を解説していこう。それは、慈悲と寛容の心だ。梵我一如という言葉が存在する。私と宇宙、私と私以外のすべては本質的には同じ存在だということだ。先に述べた、全てが仏の性質を持っているという考えとつながっているのだが、この言葉の根底には平等の意味が隠されている。その考へると、一切衆生悉有仏性と呼ばれる、全てが仏の性質を持っているという考えが繋がり、慈悲心が生まれる。そして、一切衆生悉有仏性の精神は、一見しては隠れていて分からないことがあっても、実は全てのは仏の性質を持っているという考えに繋がり、寛容の心を生み出すのだ。

ここでは紹介しきれなかったが、密教の修行とは本当に多彩で、まさにインド仏教の集大成と呼ぶにふさわしい。悟ることより、その先の慈悲の実践の方に重きが置かれるようになったことは非常に大きな進化だと言えるだろう。そして、思いやりや寛容といった、

密教の尊ぶ価値観を学んで、この国から失われつつある人の温かさを感じ、どこか切ない気持ちを感じたのは私だけではないだろう。そう、私たちは空海の活躍から一〇〇〇年以上も密教に親しんできたのである。しかし、近代以降その密教は軽んじられてきた傾向にある。物質的な豊かさの成長に陰りが見えてきた今だからこそ、もう一度密教に触れてみるのはいかがだろうか。

「インターネット免許制度の問題点、もしくは実施可能なくみ」について

東京電機大学 工学部二年 一年

中島 章伸

近年の急激な技術の発展により生活に関するあらゆる物が簡略化され、自動車などのAIによる自動化あるいはインターネットで簡単なコミュニケーションが完成しつつある。その急激な技術の発展は人々をより豊かに、便利に、そして安全にしている。ユーザーーツのような宅配サービスも、YouTubeといった映像を通しての娯楽も、すべて技術の発展からの賜である。しかし、メリットがあればデメリットも存在する。急激な技術の発展には人々の生活を豊かにするだけでなく、ちよつとした事で生活を困難にしまう恐れもある。

その理由は、ほぼ全ての技術にインターネットが関わっているからである。

インターネットは非常に便利なものではあるが、使い方を間違えると途端に危険な物へと変わってしまう。それはインターネットを使用する者全員に当てはまるため、全く人ごとではない。最近で言えばネットの番組に出演していた女性レスラーの木村花さんが、SNSでの誹謗中傷を受け自殺されたことだろう。彼女は当時二十二歳で、番組を見ている限りそんな思い詰めた表情はしていなかったと思う。もちろん彼女の身の回りの人が当人を悪く言うこともなかっただろう。それは詰まり、インターネットの底の見えない世界の言葉が、彼女の生を困難にしたといっても過言ではない。こういった話は何も有名人や芸能人にだけ起きることではなく、一般の私たちにも簡単に起きる話であることを忘れてはならない。実際にネットでのイジメが原因で自殺する若者が後を絶たないことが、その証明といっても良いだろう。

こういった実例を見ていくと、インターネットがいかにも危険で制御ができない物かがわかる。今や小学生がスマホを持つのもおかしくない時代になっているが、こういった事例を考えるとそれは果たして正解なのか怪しいものである。インターネットの世界の入り口の敷居は非常に低く、そのために機器さえあれば誰でも使えてしまう。一步間違えればいろいろな意味で地獄に落ちてしまう事が起こりえるのである。

だからこそ、今一度インターネットという宇宙への入り口を制限

すべきなのである。インターネット免許とはまさに、宇宙へ飛び立つ前の段階である程度制限を掛ける事だ。

まずはそのインターネット免許をどのように設けるか、そしてその免許にどんな効果を期待できるかを考えていく。私が考える方法として、まず一つ目はインターネットを使う人一人ひとりに、特定のIDを持たせることである。簡単に言えばマイナンバーカードのようなものを一人ひとりに持たせるのである。これはインターネットに接続できる機器を立ち上げたとき、必ずそれぞれのIDを入れなければ立ち上げることすらできないようにするのである。そうすることによって、どの機器からいつどういった書き込みをしたかを簡単に割り出すことができる。またIDを小学生などに作らないことによつて、判断能力が十分ではない子供達がネットのイジメに遭うことを未然に防ぐことができる。ただこの方法には、かなりの穴があるので実現は不可能だろう。まず一つ目に、この方法を採用した際のコストに対するリターンが見合っていないことである。一人ひとりにIDを生成するとはいったものの、どこからどこまでIDを作るかが明確に示されない事である。日本国民全員なのか、申請した人だけにするのかによつて変わってくる。まず一つ目の日本国民全員にIDを配る方法をとった際、例えば九十歳を超えインターネットとは無縁の生活を送っている人にもIDを作るのか、小学生以下の子供達も結局インターネットを使えるようにして大丈夫なのかといった問題が挙げられる。これらの問題は、まず、インターネットを使わない人はIDを返納できるようにし、IDの生成を十二

歳になった時にすれば上記の問題は解決するだろう。しかし現代のネット社会で、いくつになろうとおそらくインターネットから完全に切り離れた生活を送るのはほぼ不可能であるため、返納することは考えにくい。また十二歳になった時点でID作成というのも、はたして全中学生が正確な判断ができるかはまた別の問題であるため、間違いない何歳からにするかで議論が停滞するだろう。そもそもIDがもし流出してしまった際に、果たして誰が保証するのかも議論の的だろう。ハッカーにサイバー攻撃など食らった際にはひとたまりもないだろう。こういった問題点が山積みのID作成方法で代わりを得られるものは、誰がどの時間にどの端末で何を書き込んだかという超監視社会の一端であり、国民からはさぞ反対されるだろう。そもそもID制は韓国のような実名制とほぼ同じなので、もし国や政府への文句を言いたくても、それによって国からインターネット免許を剥奪されるような事があれば、もはやそれはネット規制された台湾や、ミャンマーといった独裁国家にもなり得る状態となるだろう。言いたいことをいえない状態になってしまえば、考えの違う者同士が集まって声を上げることもままならない。それはつまり中国のような、完全監視社会の入り口であり民主主義とは到底考えられない世界になってしまう。

では次の案として、減点制にしてみるのはどうだろうか。特定のワードをインターネットに書き込むごとに減点と警告を送り、規定の回数を超えるとインターネットに接続できなくなるという仕組みである。しかしこの方法は、先ほどの穴が大きく、良い成果は見込

めないだろう。仮に「死ぬ」というワードが禁止であったとする。このワードはすでに多くのSNSでも禁止ワードとして有名である。しかし直接このワードを言わずに「氏ね」といった代わりのワードを書き込むことによって、AIでは見抜けない穴で相手に「死ぬ」を表現することができてしまうのである。こういったワード回避をどうするのか、またどの程度のワードから規制するのかにもよって変わってくる。私は平気な言葉でも、違う人からすれば嫌なワードは当然あるわけで、こういったワードを全て禁止ワードにしてしまうと、おそらく正常な会話ですらできなくなってしまうだろう。よってやはり減点法も難しいと考えられる。

これまで二つほど免許案を出してきたが、どんなに考えても既に普及してしまっているインターネットを今更一から規制することは不可能に近い。ましてや免許といった形にするのは、到底容易な話ではない。さらに言えば、ここまでは誹謗中傷やイジメの件について考えてきたが、インターネットの問題はそれだけではない。詐欺や犯行予告といったこともインターネットにはびこっている。特にインターネットでの詐欺はお金のない中高生を狙ったものが多く、相手を特定する技術もないため、詐欺されたとしても泣き寝入りするしかない事が多い。また匿名であることを利用し、大学等に爆破予告をする者もいる。こういったケースは逮捕されている者もいるが、おそらく逃げ切るケースも多いだろう。このようにインターネットには私が知らないような問題もあると考えると、到底安直なインターネット免許制度は通用しないと考えられる。ではもう打つ手

はないのか、そんなこともおそろくないだろう。完全に全ての問題を封じることができなくとも、それぞれの問題に少しずつ対処していけば減らせることはできるだろう。

ではまずネットでの誹謗中傷について考えていく。まず考えられる対処法として一番なのはツイッターやインスタグラムなどの不特定多数の人間が存在するようなSNSを使わないことである。これは極論のように思えるかもしれないがそんなことはなく、昔からツイッターは愚痴の吐きどころとして有名であり、その矛先が一度でも自分に向けば一斉に向かってくるからである。基本的にSNSで誹謗中傷する人は、単体で見ればそこまで特に深く考えずに文字を打っている場合が多い。しかしこれが一人ではなく複数いるため、誹謗中傷を受ける側には大量に届いてしまうのが現実である。これを割りきれれる人であれば問題はないのだが、それぞれの一件をまともに受けてしまう人は、免許が作れない今、特定までには時間を要する為、相手をどうにかしようとするのではなく、自らが完全にやめるべきだと考える。

次にネットいじめについて考える。おそらく数ある問題の中でこの問題が一番の難所だと考える。その理由として、ネットいじめが起きるのは当人の周りの人間との事で、発覚するのが遅れるのはよくある話である。また当人も周りに相談することをためらう場合が多く、手を打つ前に大事になるケースが多い。ではどうすればこの問題を少しでも解決に向かうことができるのか、これはネットと関係ない解決策にはなるが、生徒一人ずつカウンセラーと話すタイム

ングを設けることである。しかし、これは今回の件とは関係ないので理由は割愛する。

最後に詐欺や犯罪予告といった、犯罪行為について考える。詐欺の被害に遭わないためには、うまい話につられないようネットで儲けようと思わないこと、としかいえない。詐欺をネットからなくするためには、ネットでの正規に決められた場所以外で金銭のやりとりを禁止することである。インターネット免許を考えるのであれば、これができない理由はないだろう。犯罪予告はとても難しい。これは警察に頑張ってもらおうことしか考えられなかった。

以上が私の考えるインターネット免許制度の問題点、もしくはは実施可能なしくみである。免許制度と問題点については考えることができたが、実際に可能な仕組みとなると一人だけ考えつく事には限界があった。今回考えたことをもつと深くするにはやはり、自視点だけではなく、多様な視点が必要だとわかった。インターネットは生きていく上で必要不可欠の物なので、自分も問題が起きないように意識して使っていきたい



集会室奥側より左側トイレ
右側下足入れ設置

僕が大学で学んだこと

早稲田大学 基幹理工学部 一年

中村 巽

私は大学に入学してから、様々な分野の勉強をしてきた。今回は、その中から一部だけだが、特に興味を持った分野について紹介したいと思う。まず一つ目に紹介するのが、文化人学的な視点から黒人差別について言及する学習についてだ。社会の授業や日ごろのニュースなどでよく、黒人差別について取り上げられているのを目にするまた、二〇一四年には白人警察官によって、人の命が奪われるといったような事件が相次いだ。Black Lives Matter という言葉を一時期よく耳にしたが、これは黒人に対する人種差別の撤廃を訴えるために行われた、国際的な運動である。このレポートでは、そういった黒人差別についての根深い歴史と、それに対する考えを書いていく。まず、この問題を考える上で、なぜ黒人は差別を受けているのかという点から考える。黒人差別が始まったのは十五世紀あたりのヨーロッパだと言われている。この時、ヨーロッパ諸国では領地拡大のため、土地を探してはその場の人を捕まえ奴隷としていた。そこで、植民地化を正当化しようとする白人の動きによって、黒人を差別化する思想が植え付けられたと考えられる。Black Lives Matter をはじめ、様々な黒人差別撤廃に向けた運動が行われたり、アパルトヘイトの廃止など政府によって対策されたりしているもの、いまだにこうして黒人を対象とした事件が起きていることに、

黒人差別の根深さを深く実感する。私は、この黒人差別が始まったきっかけを知り、差別をしている人間は皆、そこに深く具体的な根拠はないのではないかと思った。黒人でも白人でも、一人ひとり大切に命を授かっているため、どんな理由があってもそれを奪うことは間違っており、あつてはならない。しかし、この差別を解決することは簡単なことではない。それは、この根深い差別の要因が、制度的な問題だけではなく、人の心の問題でもあるからだ。私はむしろ、心の問題のほうを重要視するべきだと思う。

それは、数々の制度を通してまあ、いまだに差別が残っていることが物語っている。だから、どんな制度が実施されたとしても、どんな運動が行われたとしても、まず差別撤廃に大切なのは、黒人ではなく積極的な白人の参加だと思う。確かに、白人至上主義の人たちにこれを理解してもらうことは難しい、しかし今差別における人の心の問題を改善するために Black Lives Matter などの黒人差別撤廃運動に参加すべきは、黒人差別に強く反対する白人だ。黒人が頑張つて、黒人差別に反対したとしてもこの問題の解決は遠いだろう。白人が参加することによって、肌の色が異なっていたとしても人類は皆それぞれが尊重されるべき命を授かっていることを、すべての人につたえるべきだ。また、宗教上の問題からおこる黒人差別も存在する。このような場合は確かに、習慣や風習が異なる者同士が共存するとなると、違和感があり区別が発生してしまうのは理解できる。しかし、その区別を差別によってしか境界を作れないことに疑問を抱いた。それは日本という国に生きている私が、宗教

に強い信仰を抱いていないためなのかもしれないが、一つ言えることとしては、日本にも宗教は存在するがそれぞれが独立して互いに干渉しあうことはほとんどない、それは互いに興味がなからだと考えられる。周りがどうであるかより自分に気を配り、周りに関心を寄せない。これは、黒人差別を解決するうえでのヒントになるのではないだろうか。相手を認めなさいという奇麗事を強制するのはなく、あまり周りに関心を寄せないという、無関心さを持たせることも大切であるかもしれない。

二つ目は、生活空間と文化を結び合わせるという建築物について深く学ぶという講義で学んだことについてだ。私がこの講義を通して、自分の中で変化したと思うことは三つある。まず一つ目は、私生活において建物やその空間にさらに興味を持つようになったことだ。講義を通して、建物の外見だけでなく空間にも目を向けるようになった。建築した人がどのような目的で構造を考えたのかは分からないが、講義を通して自分自身で空間の利用目的などを考えるようになった。私は大学は理工学部に入学したが、子供の頃から建築士になりたいという夢があった。そのため小さい頃から建物に興味があり、どのような構造をしているのか、様々な建造物を見に行ったりは考えていた。例えば京都の金閣寺や銀閣寺、清水寺や平等院鳳凰堂など歴史ある建造物なども訪れたことがある。例えば、僕が中学校の修学旅行で訪れた平等院鳳凰堂の前には水がありそれに写る建物は非常に綺麗で、建物だけでなく周りを囲むものにも目を向けていてそれを上手く利用するという発想を考えついた人がすごいな

と尊敬していたのを今でも覚えている。しかし、この授業を通して建築とは、建物の外部構造だけではなく周囲の環境との関係性や内部の構造、特に空間にもはつきりとした意味があることを学んだ。

二つ目に僕がこの講義を通して変わったなと思うところは、日本以外の海外の国に目を向けるようになったことだ。この講義ではすばらしい発想力を持った世界中の有名な建築家について教えていただくことができた。歴史上に名を残す建築家は、現在にも引き継がれているような有名な構造を考えついたりとその発想力にとっても刺激を受けた。どのような分野にでも言えることではあるが、やはり〇から一を生み出すような天才が時代を超えて素晴らしい影響を与えるのだなと感じた。五回の講義を終えて、僕が特に印象に残っている建築家がル・コルビジェだ。彼は一九一四年に、以前は外壁を固め外見がごつい建物しかできなかったのに対して、ドミノ型住居の建築において、柱を内部に立てることによってその力を利用して重力がかからないところにガラス張りの構造を作ると言う考え方を思いついた。その考え方が一九二二年のイムーヴル・ヴィラにも応用されており、内部の鉄骨で支えることによって水平連続窓を可能にしており、また他にもラ・ロシュユジャンヌレ邸などもこの考え方によって可能となった建築になっていることを知った。ル・コルビジェの与えた影響の大きさにとても驚いた。このことから、僕が小さい頃に夢を描いていた建築家がこれほどまで奥が深く、そしてこれほどまで美しいものであったことにとっても感動した。また、この講義を受けてから早稲田大学の理工学部キャンパスを見るたびに

水平連続窓があることを意識してしまおうようになった。

三つ目は世界の建造物を様々な知識を得た上で実際に見に行ってみたいと言う目標ができたことだ。僕は今まで生きてきた中で一度も日本から出た事はない。そのため今まで実際に見てきた建造物はすべて日本のものだ。もちろんお金がかかるという理由もあるが、今までは海外に行くことにあまり興味はなく日本の観光をするだけで充分だと感じていた。しかし、この講義を通して、世界の有名な建築家やその方々が作った建造物について学んでみて、まだまだ浅い知識ではあるが、これから様々な知識や経験を身に付けて時代を超えて歴史に名を残した有名な建築家たちが残した建造物等を肌で感じてみたいと強く思った。ただ建物を見るだけでなく、どのような考えがありそのような構造にしたのかや、空間がどのような意味を成しているかなど理解したうえで見てみることでさらに深い時間になるのではないかと思った。これらのことから、この講義で学んだことを踏まえて実際に現地で見たいと思う思いが強くなった。

以上が私が大
学で学んだこと
の中で、特に興味
を持った内容だ。



集会室トイレ 手洗と鏡を設置

カナダの短期留学について

法政大学 法学部 一年

藤川 遥

私が特にいい経験ができたと思うカナダの短期留学について書こうと思います。高校一年の時に行ったのですが、余韻が凄すぎて毎年カナダに行きたいって思うようになりました。学校から申し込む形だったので同級生と後輩合わせて四十人くらいだったのですが、ホームステイは一軒につき一人でした。知らない土地でまだ全然喋れない英語で不安もあったのですが、楽しみの方が多かったです。語学学校はバンクーバーにあつて、わたしのホームステイ先はノースバンクーバーにありました。Sea Busという船に乗って毎日学校に通っていました。バンクーバーにホームレスステイの子がほとんどだったのでいい経験ができました。私のホームステイ先は独身の女性の家で他にも六人くらい留学生の人がいて、日本人は私だけでイタリアの人やドイツの人がいました。ドイツの人とは夕食を一緒に食べたりして仲良くなりました。食事面の朝は自分たちで準備してそれぞれが食べる形でした。日本にはない極細の食パンにジャムを塗って食べていました。昼は家主の人がサンドイッチやハンバーガーを作ってくれて、それに丸ごとのりんごが入っていました。最初は驚いたのですがご飯を食べる時に他の人も丸ごとりんごにかぶりついていたのでこれが普通なのだと思います。夜はサラダが多かったです。なぜかという、家の家主の方が運動をたくさんして

いて健康志向なのだと思いますが、なぜ私たちもサラダなのだろうと思っていました。海外特有の味というのがあって、昼のサンドイッチもサラダも私の口には合いませんでした。しかし美味しいお店は沢山あって韓国料理や日本食の店にほとんど行っていました。一番行ったのは北のどんぶりという店と Gyojiro というラーメン屋です。私は店で食べるラーメンはあまり好きではないのですが、Gyojiro のラーメンが今まで食べた中で一番美味しかったです。

カナダは日が暮れるのが遅く夜の八時でも普通に明るいので時間感覚が狂っていました。学校が四時くらいに終わってそこからは友達と観光も含めて十時くらいまで遊んでいました。私がカナダを好きな理由の一つは人柄の良さです。たまたまかもしれないのですが私が出会った人はみんないい人すぎてありがたかったです。特に印象深いことがあって、バンクーバーには沢山のホームレスの方がいます。電柱の前に一人といった感覚です。ある時バスに乗って帰っていた時、足が良くない女性の方が乗ってきてその時はもう満席状態で私も立っていたのですが、誰かがその女性に席を譲る前に乗り合わせていたホームレスの方が大きな声で誰かその女性に席を譲ってあげてくれと言っていました。ホームレスに札束を上げる人や、花火大会で現行犯逮捕される人、駅のエスカレーターが結構止まっています階段になっていたことにも驚きましたが、このことも私の中で結構驚きでした。

バンクーバーに着いた時にエージェントさんに言われたのは、ガスタウンには絶対に近づくなということでした。ガスタウンにはホ

ームレスの人がそこら中にいてとても治安が悪いところでした。一回バスでガスタウンを通ったのですが、壁に張り付くようにホームレスの人がいました。カナダではマリファナが合法化されているので、普通に路地裏で吸っている人がいます。マリファナの匂いは独特すぎるのと今まで匂ったところがない臭さがあるのですぐにわかります。路地裏の前を通る時は息を止めていました。

今回の留学ではエージェントさんが色々企画を準備してくださっていて B B Q や遊園地やウイスキーなど沢山のイベントがありました。B B Q はキツラノビーチというところでやりました。海なのになぜか危ないから海には入るなという看板があったのにも関わらず、結構な人が入っていたのはカナダらしいと思いました。B B Q ではハンバーガーやホットドッグを作ってくれて、エージェントさんの中には韓国の人もいたのでサムギョプサルを焼いたりしてくれました。夏に行ったのでビーチがとても綺麗で写真も沢山撮りました。遊園地は Playland というところで日本の遊園地にもありそうなアトラクションが多数ありました。ジェットコースターに乗った友達から、安全ベルトがとて緩くて落ちる時にほとんど立っていたと聞いて乗らなくてよかったと思いました。朝から夕方まで乗り尽くしたので本当に楽しかったです。カナダには有名な花火大会があつて Honda celebration of light です。イングリッシュベイビーチで開催されていて国別対抗の花火が打ち上げられます。規模が違いすぎて警察の人の数がすごかったです。数日あつて日によってどこの国の花火が打ち上げられるか決まっていますがとても綺麗でし

た。日本ではないところで花火を見られたことがとても新鮮でした。カナダは店屋にトイレがないところが多くて友達とトイレを探しているうちにいつの間にか暗くなって、急いで戻ったら他の友達たちが本来た場所にいなくてプチ迷子になったのも思い出です。

日本では絶対に経験できないことや度胸がついたことを含め行かせてくれた親と祖母には感謝しています。

アニメについて

慶応義塾大学 経済学部 一年

松本 誠也

小さいころからたくさんアニメを見て育ちました。その中でも一番長く見続けており、一番大好きなアニメがワンピースです。尾田栄一郎先生が書いていて、現在一〇〇巻まで発売されている、今や国民的アニメといえる人気なアニメです。ワンピースは主人公ルフィが海賊王を目指す物語です。海賊というと悪者というイメージがあると思いますがルフィは違います。誰よりも仲間や兄弟思いで、自分の決めた目標にむかって一直線に進んでいるかっこいい船長です。ワンピースにはたくさん笑えるシーンや感動するシーンがあります。その中でも自分が好きなシーンを三つ紹介したいと思います。

一つ目は、ホールケーキアイランドで仲間であるサンジと戦った場面です。この場面は個人的にワンピースの中でも一番感動した場面です。ルフィの仲間であるサンジが恩人を人質に取られ、敵に連れていかれました。そして親の都合で勝手に四皇の一人であるビッグマムの娘と結婚することになってしまいます。しかしそうすると妻わらの一味をやめなければなりません。サンジを救い出すためにルフィたちはホールケーキアイランドに向かいました。しかしサンジは恩人を人質に取られているのでルフィのもとに帰ることはできませんでした。そこでルフィに対して「下級海賊」などと暴言を吐き、ルフィが倒れるまで蹴り続けました。そうでもないかとルフィは自分を救出することを諦めてくれないと思ったからです。しかしルフィは立ち上がり、「こんなことで俺を追い払えると思っていいのか!? フザけるな! 俺の事蹴るだけ蹴っても痛いのはお前だろ!」と言い、サンジ救出を絶対にあきらめませんでした。自分は頭から血が出るまで蹴られているのに、それよりも大好きな仲間に言いたくもない暴言を吐き、大好きな船長を蹴るしかなかったサンジの心の痛みのほうが痛いと言ったのです。そうしてサンジは仲間の元に戻りたいと本心をルフィに伝え、麦蘖の一味はビッグマム海賊団と戦ったのです。仲間のために船には戻らないと決断しなければならなかったサンジと、本心を言えずに苦しむ大切な仲間を何としても連れ戻そうとするルフィの両方にとっても感動しました。

二つ目は、ルフィが兄エースを助けるために海軍VS白ひげの頂上戦争に乗り込んで命がけで自分よりも強い相手と戦うシーンです。

自分が死にそうになっても、今兄を助けるために闘わなければあとで死にたくなると自分を奮い立たせ、限界を超えても戦い続けました。一度は救出できたものの、ルフィを助けるためにエースは身代わりとなって敵の攻撃を受けてしまいます。自分はまだ死ぬと分かったエースは仲間や弟であるルフィに、「愛してくれてありがとう。」と言い残して死んでしまいました。エースは海賊王の息子であり鬼の子と言われ生きてきました。何も悪いことをしていないのに海賊王の子供というだけで小さいころから多くの人に嫌われて生きてきたエース。自分は生まれてきてもよかったのがわからない人生でした。しかし最後に弟であるルフィが助けに来てくれ、オヤジと慕っていた白ひげと仲間たちも命を懸けて自分を救出するために闘ってくれました。そこで初めて、みんなから愛されている。自分は生まれてきてよかったのだ、ということが分かったのです。そして心からの感謝を伝えて死んだのです。このシーンは誰もが感動したシーンだと思います。またエースが死んだ後に絶望するルフィですが、まだ自分には仲間がいると思い、立ち直ったのもとても感動的なシーンでした。

三つ目はメリー号とのお別れのシーンです。メリー号は麦わらの一味が当初から使用していた船です。ルフィたちとの冒険で傷つきボロボロになりながらもウソップが修理しながら使用してきました。しかしウオーターセブンの船大工職人であるアイスバーグにもこの船は使うことができないといわれてしまいます。どうにかして修理しようとする一味でしたがどうすることもできないほどの損傷だ

ったので乗り換えることにしました。そのようなことが起きていた時に、新たに仲間入りしたロビンが政府に連れ去られるという事件が起きました。そこでルフィたちはロビン救出のために世界政府と戦います。なんとか戦いに勝ちロビンを救出することができたルフィたちでしたが逃げる船がありませんでした。その時、直ることがないと言われたメリー号が現れ全員無事に政府から逃げることに成功したのです。実はアイスバーグが応急処置だけは施していたのです。そして応急措置にだけ動けるようになったメリー号はアイスバーグにお礼を言い、麦わらの一味を救うために無人で走り始めたのです。しかし無事麦わらの一味をのせて政府から逃げたところで限界を迎えたメリー号は先端が折れてしまいます。そこでルフィたちはメリー号に火をつけお別れしました。その時にメリーは、「今まで大切にしてくれてどうもありがとう。僕は本当に幸せだった」といって涙のお別れをしました。

このようにワンピースには多くの感動シーンがあり、我々読者の心を動かしてくれます。そして仲間を大切にしてひたすら自分の夢に向かって突き進むルフィの姿からは多くの事を学ぶことができると思います。仲間を信頼するからこそ仲間も自分の事を信頼してくれ、助けてほしい時に助けるからこそ仲間も自分の事を助けてくれるということ。また自分がピンチの時でも仲間を助けるということ。これはすごいことだと思います。自分に余裕があるときに人助けができる人ならたくさんいます。しかし自分も困っているときに人の事を助けることができる人はなかなかいないと思います。このよう

なルフィの姿は我々も見習うべきです。またまっすぐに夢を追いかける姿は周りの人たちの心を動かします。だから常にルフィの周りには仲間がついています。私もルフィのような仲間を大切にし、信頼され、多くの人の心を動かすことができるような人間になりたいとワンピースを見ていて思うようになりました。

笑えるシーンから感動するシーンまであり、さらにたくさんの方が学べるワンピース、皆さんもぜひ読んでみてください。



裏庭の除草・植込樹木伐採を行い
インターロッキングブロックとしてテラス化

編集後記

岩陽学舎々誌第五十号をお読みいただきありがとうございます。

私自身が大学三年になって早いもので、もう一つの岩陽学舎の発行物である大森貝塚だより四十八号を編集したと思ったら、この舎誌の編集、そして今年の終わりが近づいてきました。この舎誌では、岩陽学舎の役員を始め舎生それぞれが決めたテーマで記事を書いています。それぞれの専門分野や、今年一年を通じた感想など内容は様々です。

舎誌の編集を通じて、舎生全員の文を読むとやはり上級学年の舎生の記事は文体がしっかりしているものが多いなと感じました、学舎にいる間の各年の舎誌を比べると舎生の成長が感じられるのではないのでしょうか。また文系と理系で文体が違うのは編集していて面白かったです。個人の感想では、集會室などでよく話すほかの舎生が大学で何を学び、また今年一年どんなことを感じていたのなどが分かり面白かったです。いつも賑やかな人が、論文のような構成で文を書いているのをみて、大学でしっかり勉強をしているのを感じました。

緊急事態宣言が明けてから、舎生各自大学に行く機会が多くなりました。前よりは集會室に集まるといったことが少なくなりましたが、新しくリフォームされた集會室と一緒に勉強することや、リフォームにもともなう引っ越しをお互いに手伝いするなどといった舎生間のつながりは盛んです。コロナも大分落ち着いてきたため、コ

ロナで出来なかった岩陽学舎のイベントをまたやっていきたいと感じています。

今後皆さんに岩陽学舎について知ってもらうために情報をSNSなどで発信していきますので宜しくお願い致します。

公益財団法人岩陽学舎役員名簿 (令和3年10月1日現在)

役 職	氏 名	住 所	勤 務 先 等
名誉理事長	吉川重幹	東京都	吉川家第32代当主
名誉顧問	広中平祐	東京都	フィールズ賞・文化勲章受章者、岩国市名誉市民
顧 問	弘兼憲史	東京都	漫画家 (有)ヒロカネプロダクション社長
顧 問	向阪啓	川崎市	吉川林産興業(株)監査役
理 事 長	伊藤進吾	岩国市	桧山事務器(株)代表取締役会長
常務理事	大田憲明	横浜市	元公益財団法人岩陽学舎理事・舎監
理 事	光井純	東京都	光井純&アソシエーツ建築設計事務所(株)社長
〃	大森隆司	横浜市	玉川大学・日本大学研究員
〃	佐倉弘之甫	岩国市	元岩国市教育委員会教育長
〃	川神康孝	岩国市	元シャープ社員
〃	柿木秀雄	東京都	リンクアンドモチベーション関連会社社長
監 事	武田昇平	東京都	弁護士 (ひかり総合法律事務所)
〃	松井宏通	広島市	(有)岩国さんあい代表取締役
評 議 員	谷本浩	東京都	元全日空社員
〃	松重義信	岩国市	元(株)カシワバラコーポレーション役員
〃	中村信利	岩国市	吉川林産興業(株)取締役
〃	手嶋良夫	東京都	元日本興亜損保社員
〃	菊元斉	岩国市	(株)岩崎宏健堂社員
〃	橋本聖嗣	岩国市	岩国市職員
職 員			
事務局長・舎監	三宅克彦	東京都	元(株)カシワバラコーポレーション

2021年12月発行

編集責任者 森 本 龍

発 行 者 石 村 航

発 行 所 岩陽学舎舎生会

〒143-0024

東京都大田区中央3丁目31-15

URL : <http://www.ganyogakusya.jp/>

電話 03 (3778) 5931



©岩陽学舎舎生会
